



222.5-N862m
00302786

222.5-N862m

中國資料

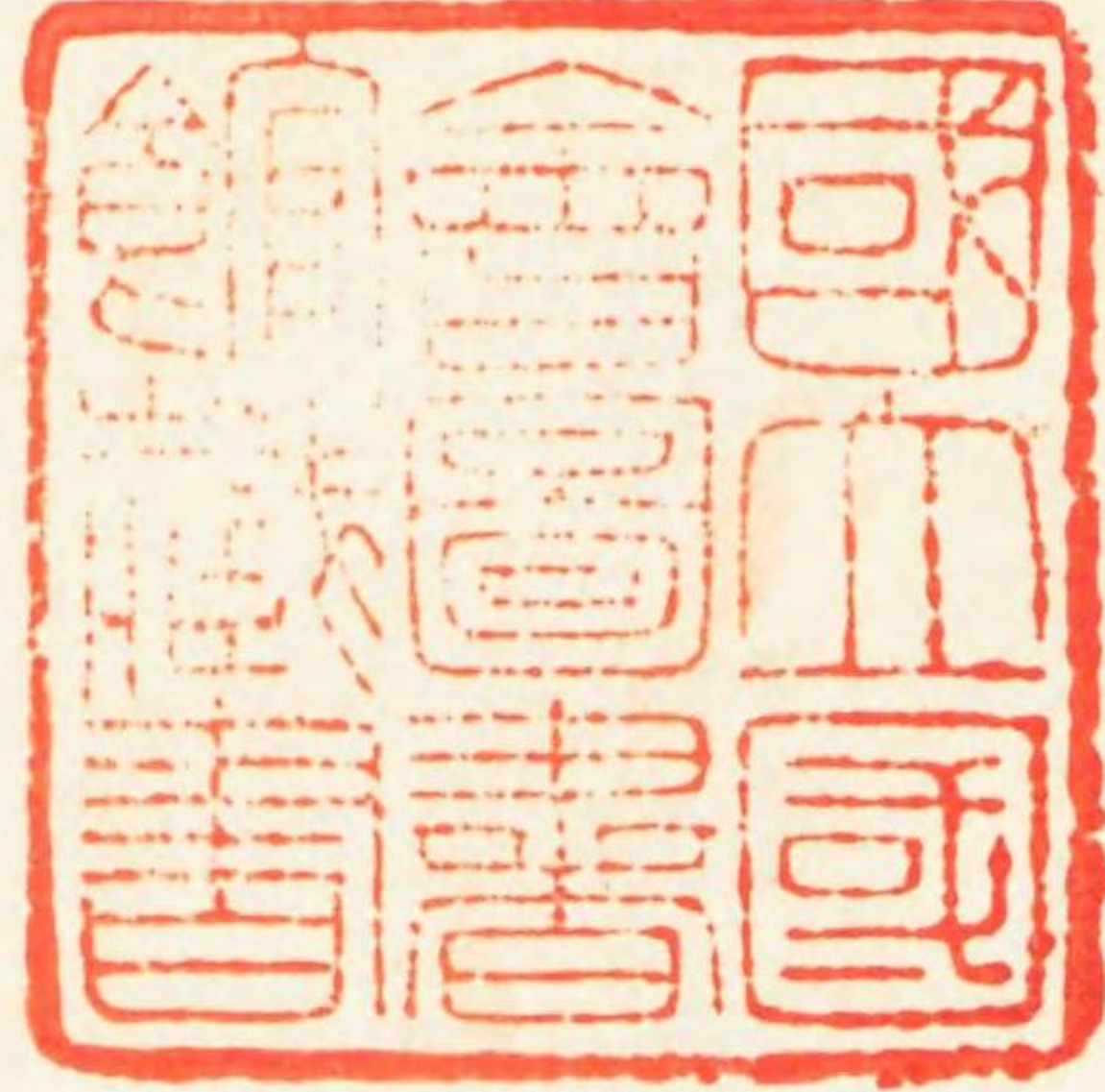
明代滿蒙史料

李朝
實錄抄

第一冊

日滿文化協會

222.5 N 862m



302786

明代滿蒙史料序

滿洲は古來特別なる歴史を持つてゐる。其の滿洲の地に、東亞の一國としての滿洲國は、宏遠なる理想を抱いて建設せられた。爾來十年、内は國力大いに充實し、文化の向上亦著しく、外は親邦日本は固より、亞歐の樞軸諸國と國交を厚くし、國運益榮え、王道に本づく民族協和の理念は達成せられた。而して今や建國十週年を迎へ、滿日兩國共に朝野を擧げて之を慶祝するのは、斯くの如き驚異的の發展に對する抑へ難き歡喜の發露に外ならぬ。

滿日文化協會は滿洲國建國の翌年創立せられ、其の目的とする所は、滿日兩國の學界の協力に依り、東方の文化を保存し、

並に之を振興するにある。因つて其の目的を遂げる爲めに、創立以來年を重ねるに従ひ、滿洲國の文化事業には、あらゆる方面、あらゆる部門に互つて直接間接之に關與し、頗る重大なる役割を勤めて今日に至つた。今其の業績の一々を具體的に語らうとはしないが、夙く創立の當初一兩年の間に、奉天に於ける内外に誇るべき國立博物館を設立し、同時に「大清歷朝實錄」一千二百二十冊を複印して世界の學界に送つた如きは、其の最も顯著なるものである。

協會の使命が斯くの如くであるから、本年日本に設けられた滿洲國十週年慶祝會が、其の事業を行ふに當つては、協會は進んで之に參與し、亦其の使命の一端を果した。即ち慶祝會は其の事業の一として、滿洲國國寶の主要なるもの（四庫全書

及び滿洲文大藏經の一部、刻絲刺繡、陶瓷等）を東京に將來し、帝室博物館と協同して展覽會を催し、東洋古文化の昂揚に資したが、これに對して終始斡旋の勞を執つたのは協會である。又慶祝會は其の事業の一として、帝國藝術院會員の揮毫に係かる日本畫及び油畫を滿洲國政府に寄贈し、建國十週年を慶祝すると共に、其の文化の向上に裨補する所あらんとしたが、これも協會の斡旋、殊に副會長岡部子爵の努力に依つたのである。而して協會はまた創立當初の事業としての「大清歷朝實錄」の複印に鑑み、建國十週年を永遠に記念するが爲めに「明代滿蒙史料」を出版することとした。

明代に於ける滿洲及び蒙古に關する文獻は頗る多いが、政治・經濟・軍事・外交文化等、あらゆる方面に互つて正確なる知識

が最も豊富に盛られてゐるのは、皇明實錄及び朝鮮李朝實錄である。しかも皇明實錄は十七朝合せて計二千九百十八卷、李朝實錄は二十五朝合せて計一千七百九卷、共に卷帙甚だ浩瀚であるが爲めに、之を涉獵するのは、決して容易の業ではない。因つて日本昭和八年、外務省文化事業部に於いて滿蒙文化研究事業の創められた時、其の事業の一として、これ等の兩書から滿蒙關係の記事を抄録し、以て滿蒙史の研究に寄與する所あらんとした。即ち皇明實錄の抄録は、京都に於いて内藤虎次郎、羽田亨兩博士の監修の下に、李朝實錄の抄録は東京に於いて池内宏博士の監修の下に、各業を進め、五年を費やして其の稿本を作成した。然るに此の抄録事業の終ると共に、外務省の滿蒙文化研究事業は、抄録事業と並行した他の諸事

業と共に廢止せられ、従つて稿本を出版しようとする希望はあつても、其希望は遂げられず、而して空しく今日に至つた。

今茲に本協會から出版しようとする「明代滿蒙史料」は、上の稿本に更に修正を加へたものである。其の修正並に出版は、羽田・池内兩博士の監修に依つて行はれる。出版の完成は三個月を期し、經費は之を日滿兩國の政府に仰いだ。凡そ二十卷、逐次刊行の豫定である。偶、出版界は時局の影響を蒙り、多大の制約を受けてゐるが、冀くは之を順調に完成せしめ、永く内外の學界を益したいと思ふ。

康徳九年十一月

滿日文化協會會長

榮

厚

李朝實錄抄序

朝鮮李朝歷代實錄の四庫本の一なる五臺山本實錄の完本が、故白鳥倉吉博士の提言と時の朝鮮總督故寺内伯爵の英斷とに依り、東京帝國大學附屬圖書館の架藏に歸したのは、大正三年の初めてであつたと思ふ。當時余は會ま元末明初の半島と滿洲との關係の考察に指を染めてゐたので、此の珍籍に接して大いに喜び、涉獵幾十日かを重ねて新たに獲得するところ甚だ多く、明代滿洲史料として之を觀るも、其の價値の極めて大なるものあるを痛感した。因つて當面の問題に對する抄録を作製しつゝある間に、やがてはそれを清初にまで及ぼし、明朝一代を通ずる滿洲史の攷究に資さうと考へた。さう

して是の年並にそれより以降、逐年二朔の暑中休暇を其の業に充て、太祖から中宗まで十一代の實錄の抄録を畢つたのは、足かけ十年の後なる大正十二年の夏であつた。然るに九月一日の大震災は、卒然附屬圖書館の藏本を悉く烏有に歸せしめ、貴重圖書であつた李朝實錄も、史學研究室内に別置せられた若干卷及び余の自宅に借出した若干卷(此の貴重圖書は、余に對しては特に帶出が許るされてゐた)の外は、皆な亡んだ。余の失望は固より言語に絶するものがあつたが、十月上旬、古蹟調査の爲め朝鮮に渡り、調査の了つた後も、大學で焼失した朝鮮本の復興を企圖して、稍や暫く京城に滞在したので、其の間に、奎章閣收藏の太白山史庫本實錄に就いて仁宗、明宗(第十二代及び第十三代)二王の實錄の抄録を續行すると共に、内地

に於いて姑く後廻しにしてあつた成宗實錄(第九代)の一部の抄出を補足した。しかし時日の關係上、宣祖實錄(第十四代)、光海君日記(第十五代)及び仁祖實錄(第十六代)には及ばないで止んだ。

降つて昭和五年から同七年に互り、太白山本の實錄一千七百九卷は、朝鮮總督府の事業として景印出版せられた。印本僅かに二十部に過ぎなかつたけれども、これに依つて此の祕籍は始めて學界に開放せられ、同時に保存を永遠に確保することもできるやうになつた。しかも之を利用しようとするものからいへば、卷帙甚だ尨大なるが故に、逐一涉獵して所要の事項を検索するのは、決して容易の業ではない。即ち特殊の目的に對しては、特殊の抄録が要望せられるのであつて、余

が自ら上記の抄録を作つた所以もこゝにある。たゞ余の抄録は毫末も世に示さうとする意圖を含まず、専ら自己の研究の便宜を目安としたものであるから、體裁・内容共に史料集たる資格を具備してゐないことは固より言ふまでもない。

偶ま滿洲事變の結果、昭和七年には滿洲國の建國を見、それを契機として翌八年春、外務省文化事業部に於いて滿蒙文化研究事業が開始せられたが、其の時此の新事業の一に取りあげられたのは、皇明實錄及び李朝實錄から滿洲・蒙古に關する記事を抄出編成して、明代滿蒙史の研究に寄與することであつた。さうして皇明實錄の抄録は、内藤湖南・羽田亨兩博士を指導者とし、翌年内藤博士物故の後、は専ら羽田博士、李朝實錄の抄録は、余其の責に任じ、それ〴〵業を進めることゝなつた。

こゝに於いて余は文學士旗田巍君を編者に充て、自ら筐底に藏した「李朝實錄抄」の草本を同君に授け、之を參考して體裁・内容共に新事業の目的に副ふべき完全なる抄録を編成せしめることゝした。底本には景印太白山本を用ひ、滿洲に關する記載は、明・鮮雙方に互つて細大漏らさず網羅すると共に、遼東並に蒙古に關する記事も、悉く之を収録する方針を取つた。かくして事業開始の後、五年、稿本正副各二十六冊を作製して所期の業を完了した。たゞ出版の事は行はれずして止んだ。

五年の歳月を費やした業績が、其のまゝ放置せられるとすれば、それは餘りにも本意ないことであるが、更に五年を経て本年に至り、遂に結實の機會は來た。即ち日滿文化協會は新

興滿洲國が建國十周年を迎ふるに當り、最も意義ある慶祝事業の一として、既に編成せられた明鮮兩實錄抄の稿本に修正を施し、「明代滿蒙史料」と題して印行することゝしたのである。さて其の稿本李朝實錄抄の修正には、旗田君が先年滿鐵の調査所に就任したので、文學士深谷敏鉄君が新たにこれに當つた。修正の要旨は務めて前稿の遺漏を補ふと共に、内容のやや間接なる記事も、寧ろ廣きに從つて成るべく之を收載することである。さうして朝鮮の對女眞策に本づく朝鮮自體に關する事項も、亦た此の趣旨の下に頗る増益するやうにしたが、此の場合に於いては、凡例に示した如き方法に依つて、滿洲本位の事項との間に輕重を附し、既に前稿に收録せられた同様の記事に對しても、新たに此の方針を適用した。一々の記

事の係けられてある干支(日次)を掲出するに當り、それに特別な注意を拂つたことは、前稿作製の際に定めたと同様に同様である。

かくの如くにして「明代滿蒙史料」の一翼を成すべき「李朝實錄抄」は、旗田・深谷二君の相次ぐ努力に依つて、略、完璧に庶幾いものとなつた。随つて余の當年の草本の如きは、今や余自身に取つても殆んど反故同然となつたけれども、それが先づ旗田君の稿本作成に際して、五年の間若干の用を務めたのみならず、更に深谷君の熱心なる修正増補を経て、かばかり整備した完稿となり、さうして遂に世に現はれる幸をさへ得たことを思ふと、深く二君の勞を感謝しながら、自ら無限の喜びを禁ずることができないのである。

昭和十七年十一月

池内宏

凡例

一本書は景印太白山史庫本李朝實錄に就いて、明代の滿洲並に蒙古に關する記載を抄録編纂したものである。

一明代の滿洲蒙古に關する同實錄の記事は、廣きに従つて、概ね細大漏らさなかつた。たゞし蒙古及び蒙古民族に關する記事は極めて少いので特に編を分つことをしない。

一凡そ明代の滿洲及び其の周邊に於ける滿洲民族の活動事蹟・社會習俗等を傳へる記事は、これを網羅し、交ふるに李朝と明朝の女眞民族に對する政治軍事經濟上の施策と施設とを傳へる記事並に遼東と朝鮮との交渉に關する事項を以てした。さうしてかゝる事項のうち、専ら朝鮮自體に關するものは、特に首に〔參〕字を冠して參考に資する意を示し、且つ活字の大きさを落して滿洲本位の記事との區別を明

かにした。

一索引一卷を添へて人名地名の検索に便した。

一原本異字・俗字頗る多く、其の體も一二に止まらぬが、それは専ら印成の際、新舊の鑄字を混淆併用せる事實に本づくものであつて、格別重きを置くに當らぬと考へられるから、力めて常識的に處理した。

イ俗字・異字の多くは、正字に改めた。たゞし時に原本の舊に從つたものもある。

ロ正俗二體以上を併用するものは、原則として正字を以て統一貫した。潜潜潜潜を潜で統一せる如き。たゞし原本の舊を存したのものもある。

ハ俗字・異字を以て一貫せるものは、原則としてこれを踏襲した。贅歟の如き。たゞし例外もある。

一原本に於いて、明かに誤字・脱字・衍字・倒錯と認められるものは、そのま

まこれを踏襲し、傍にこれが校訂正誤を施した。たゞそれを疑問の體に取り扱かつたのは、編者の慎重と謙讓から、獨斷と見られることを避けたかつたからである。なほ不用意の誤植か、意識せる慣用(音通を含む)か、猝かに決し難いものには、傍に(マ)を附した。

一記事の係けられたる干支(日次)を掲出するのに次の三様の區別を設けて、正しく原本の體を傳へるやうに力めた。

イ○干支〔本文〕

これは原本のまゝである。即ち原本に於いて、記事の首に干支を掲出せる場合である。

ロ干支○〔本文〕

これは原本に於いて、記事の首に干支を掲出せざるも、その係けられたる干支が明瞭なる場合である。即ち先行する記事の首に掲出せる干支と、後續する記事の干支との間に、日次の間隙のない時

には、これらの干支の間に掲載される記事は、總べて先行の干支に係けられたるものと考へてよい。

ハ干支先——干支後 ○〔本文〕

これは原本に於いて、(ロ)と同じく記事の首に干支を掲げず、且つその係けらるべき干支に疑問の餘地ある場合である。即ち先行干支と後續干支との間に、日次の間隙ある時は、これらの干支の間に掲載された記事の係けられるべき干支は一應疑問とするを慎重と考へ、特に(ロ)と區別して原本の體を存した。

ニ尙ほ同一の干支に係けられる二つ以上の記事に於いては、原則として干支を繰返へさない。たゞし(イ)の場合には、特に其の次の記事にだけ同じ干支を掲げて、干支○〔本文〕とした。

目次

太祖實錄

高麗朝	三
太祖元年(洪武二十五年)	二六
太祖二年(洪武二十六年)	三二
太祖三年(洪武二十七年)	四六
太祖四年(洪武二十八年)	五三
太祖五年(洪武二十九年)	七一
太祖六年(洪武三十年)	七六
太祖七年(洪武三十一年)	八〇

定宗實錄……………八七

定宗元年(建文元年)……………八九

定宗二年(建文二年)……………九三

太宗實錄……………九五

太宗元年(建文三年)……………九七

太宗二年(建文四年)……………一〇六

太宗三年(永樂元年)……………一二九

太宗四年(永樂二年)……………一四四

太宗五年(永樂三年)……………一五七

太宗六年(永樂四年)……………一八一

太宗七年(永樂五年)……………一〇〇

太宗八年(永樂六年)……………一三一

太宗九年(永樂七年)……………一三五

太宗十年(永樂八年)……………一四九

太宗十一年(永樂九年)……………一〇五

太宗十二年(永樂十年)……………一三五

太宗十三年(永樂十一年)……………一三一

太宗十四年(永樂十二年)……………一三五

太宗十五年(永樂十三年)……………一四三

太宗十六年(永樂十四年)……………一五〇

太宗十七年(永樂十五年)……………一五二

太宗十八年(永樂十六年)……………一七二



祖實錄 卷一

〔參〕○〔上〕〔穆祖〕性豪放有志四方初在全州時年二十餘勇略過人山城別
 監入館因官妓事與州官有隙州官與按廉議上開發兵圖之穆祖聞之
 遂徙居江陵道三陟縣民願從而徙者百七十餘家嘗造船十五隻以備
 倭既元也窟大王兵侵諸郡穆祖保頭陀山城以避亂適前日山城別監
 新除按廉使又將至穆祖恐禍及挈家浮海至東北面宜州原即德止焉民
 一百七十餘戶亦從之東北之民多歸心焉於是高麗以穆祖為宜州兵
 馬使鎮高原以禦元兵時雙城以北雙城即永興屬于開元路元散吉大王來
 屯雙城謀取鐵嶺以北再遣人請穆祖降元穆祖不得已率金甫奴等一
 千餘戶降前此平壤民間穆祖威望多有附者至是與從之散吉大喜禮
 待甚厚置盛宴歡飲將罷散吉親以玉杯納諸穆祖懷中曰公之家人安

高麗朝

知吾二人相與之至情聊以玉杯表吾情耳因相與誓曰自後無相忘也
穆祖乃以族女妻散吉穆祖由水陸路至時利即利城其千戶以兵阻之穆
祖語以歸順之意千戶宴慰甚厚穆祖亦以牛馬報之遂至開元路南京
之幹東居焉寔宋理宗寶祐二年元憲宗四年高麗高宗四十一年甲寅
也

〔參〕○明年乙卯散吉聞于元帝元為立幹東千戶所給降金牌為南京等處
五千戶所首千戶兼達魯花赤幹東在南京東南九十餘里距今慶興府
東三十里幹東西北百二十餘里有豆門城又其西百二十餘里有幹東
沙吾里沙吾里女真言站也站在幹東管內故云然其平有大土城南京
之平亦有大土城其北七八里又有大石城皆穆祖管領軍民之所居也
穆祖雖居幹東而往來諸城不常厥居

〔參〕○幹東東南三十餘里有海島曰者考羅北連於陸穆祖築石城以放牛
馬



〔參〕○憲宗八年受散吉令旨管領李春文大純趙奧魯哥兒卓青尙哉光奕
張哥等八介百戶之任上充兼挖扎百戶句當

〔參〕○世祖皇帝中統二年辛酉六月尙書省給降本所行使銅印

〔參〕○至元元年甲子五月欽受宣命仍充幹東千戶句當至元十一年甲戌
十二月薨葬于孔州即慶興府城南五里後遷葬于咸興府之義興部韃鞨洞
即德陵

〔參〕○十八年辛巳世祖征日本天下兵船會于合浦翼祖蒙上司文字將本
所人戶簽撥軍人與雙城摠管府三撒千戶蒙古大塔失等赴征略下

〔參〕○初穆祖時時往峴城諸女真千戶達魯花赤皆願納交遂與之從遊諸
千戶禮待甚厚必宰牛馬享宴輒留數日諸千戶有至幹東者穆祖亦如
是逮翼祖承襲遵而不改翼祖威德漸盛諸千戶手下之人多歸心焉諸
千戶忌而謀害之曰李翼祖諱本非我類今觀其勢終必不利於我盍請兵
於深處之人而除之且分其財產乎乃謬告曰吾等將獵北地而來請停

會二十日翼祖許之過期不來翼祖親往峴城唯老弱婦女在丁壯無一人問之一女對曰貪其獸多至今不返耳翼祖乃還道見一老嫗頭戴水桶手持一椀翼祖忽渴欲飲老嫗淨洗其椀取水以進因言曰公不知乎此處之人忌公將圖之請兵而去非獵也後三日必來貴官威德可惜不敢不告翼祖惶遽而返使家人船載家產順流豆滿江而下期會赤島自與孫夫人渡加陽灘登高望之則幹東之野賊彌滿而來先鋒三百餘人幾及之翼祖與夫人走馬至赤島北岸水廣可六百步深不可測所期之船亦未至無如之何北海本無潮汐水忽退落約百步許其淺可涉翼祖遂與夫人累騎一白馬而涉及從者畢涉水復大至賊至不得渡北方人至今稱之曰天之所助非人力也翼祖於是陶穴而居其基至今存焉幹東之民間翼祖所在從之者如歸市皆居島內久之取稷島楸島草島之材作船十艘至元二十七年庚寅復以水路還居宜州孔州之民皆從之其所居之地至今稱爲赤田以其自赤島而來也

〔參〕○成宗大德四年十月宣授承仕郎管領雙城等處高麗軍民達魯花赤

〔參〕○初翼祖以咸州土地平衍沃饒幹東之民南來者多處之州之歸州草

古臺王巨山雲天松豆等都連浦阿赤郎耳等地故稱咸州爲幹東逸彥

女眞謂民爲逸彥及是度祖盡有安邊以北之地而移居咸州爲近於南來之民且

便於牧養也

〔參〕○順帝元統二年甲戌度祖患風疾欲傳職於塔思不花趙氏請以其子完者不花承守後至元丁丑中書省差官來刷庚寅年從來幹東之人度祖呈省陳乞竟不刷還

〔參〕○初雙城地沃饒吏治闊略東南民無恒產者多歸焉恭愍王聞于元中書省遼陽省皆差官來王亦遣征東省郎中李壽山往會分揀新舊籍民謂之三省照勘戶計其後撫綏失宜稍流徙王命桓祖鎮之民由是得安其業越明年丙申桓祖入見王迎謂曰卿撫綏頑民不亦勞乎

恭愍王五年丙申

〔參〕○時奇皇后之族倚后勢暴橫后兄大司徒轍潛通雙城官吏趙小生卓都卿等結爲黨援謀逆王語桓祖曰卿且歸鎮吾民脫有變當如吾命是年五月平奇氏命密直副使柳仁雨往討雙城仁雨等次登州距雙城二百餘里逗遛不進王聞之授桓祖試少府尹賜紫金魚袋進階中顯遣兵馬判官丁臣桂傳旨內應桓祖聞命卽刻銜枚就行與仁雨合兵攻破雙城小生都卿等棄妻子夜遁於是收復和登定長預高文宣州及宣德元興寧仁耀德靜邊等鎮諸城咸州以北哈蘭洪獻三撒之地自高宗時沒于元九十九年今皆復之王進桓祖爲大中大夫司僕卿賜京第一區因留居之

〔參〕○至正二十一年辛丑春以榮祿大夫判將作監事出爲朔方道萬戶兼兵馬使略中桓祖至北道未幾馳報云本國人入彼土者皆順命出來四月庚戌病薨壽四十六葬于咸興府之信平部歸州洞卽定陵略下

恭愍王十年辛丑

〔參〕○九月禿魯江萬戶朴儀叛殺千戶任子富金天龍王命刑部尙書金璉往討之璉不能制時太祖爲通議大夫金吾衛上將軍東北面上萬戶王命往援璉太祖以親兵一千五百人赴之儀已率其黨逃入江界盡捕誅之

〔參〕○冬紅巾賊僞平章潘誠沙劉關先生朱元帥破頭潘等二十萬衆渡鴨綠江闌入西北鄙移文于我曰將兵百十萬而東其速迎降太祖斬賊王元帥以下百餘級擒一人以獻十一月恭愍王南遷賊據京城

恭愍王十一年壬寅

〔參〕○正月參知政事安祐等九元帥率兵二十萬進取京城斬賊魁沙劉關先生等斬首凡一十餘萬時太祖以麾下親兵二千人入自東大門先登大破之威名益著攻城之日賊雖窮蹙築壘固守會日暮諸軍進圍逼之

太祖止路邊一家夜半賊圍圍而走太祖馳至東門賊及我軍爭門雜沓不可出有後至賊以槍刺太祖右耳後甚急太祖遂拔劍斫前七八人躍馬踰城馬不蹉跌人皆神之

〔參〕○二月趙小生誘引元藩陽行省丞相納哈出入寇三撒忽面之地都指揮使鄭暉累戰敗績請遣太祖乃以太祖爲東北面兵馬使遣之七月納哈出領兵數萬與趙小生卓都卿等屯于洪原之韃鞨洞遣哈刺萬戶那延帖木兒同僉伯顏甫下指揮率一千餘兵爲先鋒太祖遇於德山洞院平擊走之踰咸關車踰二嶺幾殲委棄鎧仗不可勝數是日太祖退屯荅相谷納哈出怒移屯德山洞太祖乘夜襲擊敗之納哈出還韃鞨洞太祖屯舍音洞太祖遣斥候至車踰嶺賊登山樵蘇甚衆候卒還白太祖曰兵法當先攻弱遂令擒斬殆盡自以精騎六百繼之踰嶺至嶺下賊乃覺欲逆戰太祖率十餘騎衝賊射殪其裨將一人初太祖至問諸將累敗狀諸將曰每戰酣賊將一人鐵甲飾以朱旄尾揮槩突進衆披靡無敢敵者太

祖物色其人獨當之佯北走其人果奮前注槩甚急太祖飜身著馬韉賊將矢中隨槩而倒太祖卽據鞍射又殪之於是賊狼狽奔北太祖追擊至賊屯日暮乃還納哈出之妻謂納哈出曰公周行天下久復有如此將軍乎宜避而速歸納哈出不從後數日太祖踰咸關嶺直至韃鞨洞納哈出亦置陣相當率十餘騎出陣前太祖亦率十餘騎出陣前相對納哈出給曰我之初來本追沙劉關先生潘誠等來耳非爲侵犯貴境也今吾累敗喪卒萬餘亡裨將數人勢甚窮蹙乞罷戰惟命是從時賊兵勢甚盛太祖知其詐欲令降之有一將立納哈出之傍太祖射之應弦而倒又射納哈出之馬而斃改乘又斃之於是大戰良久互有勝負太祖迫逐納哈出納哈出急曰李萬戶也兩將何必相迫乃回騎太祖又射其馬斃之有麾下士下馬以授納哈出遂得免日且暮太祖麾軍以退自爲殿嶺路盤紆數層宦者李波羅實在最下層急呼曰令公救人令公救人太祖在上層視之有二銀甲賊將逐波羅實注槩垂及太祖回馬射二將皆斃之卽連斃

二十餘人於是更回兵擊走之有一賊逐太祖舉槊欲刺太祖忽側身若墜仰射其腋卽還騎又一賊進當太祖而射之太祖卽於馬上起立矢出胯下太祖乃躍馬射之中其膝又於川中遇一賊將其人甲冑護項面甲又別作頤甲以便開口周護甚固無隙可射太祖故射其馬馬作氣奮躍賊出力引轡口乃開太祖射中其口既斃三人於是賊大奔太祖以鐵騎蹂之賊自相蹈藉殺獲甚多還屯定州留數日休士卒先設伏要衝乃分三軍左軍由城串右軍由都連浦自將中軍當松豆等與納哈出遇於咸興平太祖單騎鼓勇突進試賊賊驍將三人並馳直前太祖佯北走引其轡策其馬爲促馬狀三將爭追逼之太祖忽又出三將馬怒未及控直出於前太祖從後射之皆應弦而倒轉戰引至要衝左右伏俱發合擊大破之納哈出知不可敵收散卒遁去獲銀牌銅印等物以獻其餘所獲之物不可勝數於是東北鄙悉平後納哈出遣人通好獻馬于王且遺鞞鼓一良馬一匹于太祖以致禮意蓋心服之也納哈出之妹在軍中見太祖神

武心悅之亦曰斯人也天下無雙桓祖嘗入朝元朝道經納哈出稱道太祖之才至是納哈出敗歸曰李桓祖諱嚮日言我有才子果不誣矣至大明洪武九年丙辰冬辛禍遣開城尹黃淑卿往聘納哈出曰我本非與高麗戰伯顏帖木兒王遣年少李將軍擊我幾不免李將軍無恙乎年少而用兵如神真天才也將任大事於爾國矣

恭愍王十三年甲辰

〔參〕○初諸奇伏誅奇皇后有憾於恭愍王本國崔濡在元爲將作同知與羣不逞說后搆王廢之立德興君塔思帖木兒爲王發遼陽省兵正月渡鴨綠江王遣贊成事安遇慶等禦之敗績退保安州王復命贊成事崔瑩將精兵趣安州節度諸軍命太祖自東北面率精騎一千赴之密直副使李龜壽知密直司事池龍壽版圖判書羅世及遇慶爲左翼判開城李珣三司左使禹禪密直使朴椿及太祖爲右翼崔瑩爲中軍行至定州太祖見

諸將退北言其怯懦不力戰諸將忌之時賊已屯隨州之獐川諸將謂太祖曰明日之戰君獨當之太祖知諸將忌之稍有憂色明日賊分爲三隊太祖居中手下老將二人爲左右各當其一隊奮擊之太祖所乘馬陷泥潭甚危馬奮躍而出衆皆驚異太祖射賊將數人遂大破之太祖望二人二人拔劍亂擊之賊已奔崩唯塵埃蔽空而已

〔參〕○初三海陽州今吉達魯花赤金方卦娶度祖女生三善三介於太祖爲外兄弟也生長女真膂力過人善騎射聚惡少橫行北邊畏太祖不敢肆太祖世長威州恩威素積民仰之如父母女真亦畏慕自戢至是三善三介聞太祖往援西北誘致女真大肆侵略遂陷咸州守將全以道李熙等棄軍走還都指揮使韓方信兵馬使金貴進兵和州亦潰退保鐵關和州以北皆沒焉官軍累敗將士喪氣日夜望太祖之至二月太祖自西北面引軍至鐵關人心皆喜將士膽氣自倍與方信貴三面進攻大破走之悉復和威等州三善三介奔于女真終不返王進拜太祖爲密直副使階奉翊

賜端誠亮節翊戴功臣之號又賜金帶倚賴益重

恭愍王十八年己酉

○初奇賽因帖木兒轍之子也事元爲平章事元亡與分司遼瀋官吏平章金伯顏等招集亡元遺衆割據東寧府憾其父見誅入寇北鄙必欲報仇王以臣事大明欲擊東寧府以絕北元十二月以太祖（北面力）爲東面北元帥池龍壽楊伯淵爲西北面元帥

恭愍王十九年庚戌

○正月太祖以騎兵五千步兵一萬自東北面踰黃草嶺行六百餘里至雪寒嶺又行七百餘里渡鴨綠江是夕京城西北方紫氣漫空影皆南書雲觀言猛將之氣王喜曰予遣李太祖諱必其應也時東寧府同知李吾魯帖木兒聞太祖來移保弓羅山城欲據路以拒太祖至也頓村李原景來挑戰原景即吾魯帖木兒俄而棄甲再拜曰吾先本高麗人

願爲臣僕率三百餘戶來降其酋高安慰猶據城不降我師圍之時太祖不御弓矢取從者弓用片箭射之凡七十餘發皆正中其面城中奪氣安慰不能支棄妻孥縋城夜遁明日頭目二十餘人率百姓出降諸山城望風皆降得戶凡萬餘以所獲牛二千餘頭馬數百餘匹悉還其主北人大悅歸之如市於是東至皇城北至東寧府西至海南至鴨綠江爲之一空皇城古女真皇帝城也太祖以元樞密副使拜住及東寧府李原景李伯顏李長壽李天祐玄多士金阿魯丁等三百餘戶來獻太祖之入亏羅也聞毀垣中有哭聲使人就視之有一人裸立而泣曰我元朝壯元及第拜住也貴國李仁復吾同年太祖一聞壯元之名卽解衣衣之與馬騎之遂與俱來王賜拜住姓名韓復復事太祖甚謹

○八月命我太祖及西北面元帥池龍壽副元帥楊伯淵往擊東寧府十二月太祖以親兵一千六百人至義州造浮橋渡鴨綠江士卒三日畢濟至螺匠塔去遼城二日程留輜重賫七日糧以行使裨將洪仁桂崔公哲等領輕騎三千襲遼城彼見我師少易之與戰大軍繼至城中望見膽落其將處明恃驍勇猶拒戰太祖使李原景喻之曰殺汝甚易但欲活汝收用其速降也不從原景曰汝不知我將之才也汝若不降則一射洞貫矣猶不降太祖故射拂其兜牟又使原景喻之又不從太祖又射其脚處明中箭退走旣而復來欲戰又使原景喻之曰汝若不降卽射汝面處明遂下馬叩頭而降有一人登城呼曰我輩聞大軍來皆欲投降官員勒使拒戰若力攻城可取也城甚高峻矢下如雨又雜以木石我步兵冒矢石薄城急攻遂拔之賽因帖木兒遁虜伯顏退師城東張榜納哈出也山不花等處曰奇賽因帖木兒本國微臣昵近天庭過蒙殊恩位至一品義同休戚天

子蒙塵于外義當左右先後効死勿去爾乃背恩忘義竄身東寧府挾讎本國潛圖不軌年前國家遣兵追襲逃不血刃又不赴於行在退保東寧城與金伯顏平章等結爲心腹松甫里法禿河阿尙介等處團結軍馬又欲侵害本國罪在不原故今舉義兵以問乃其賽因帖木兒金伯顏等誘賚小民堅壁逆命哨馬前鋒生擒金伯顏外哈刺波豆德左不花高達魯花赤大都摠管等大小頭目盡行勦捕賽因帖木兒又復在逃仰賽因帖木兒去接各寨即便捕捉飛報如有隱匿不首者鑑在東寧又勝金復州等處曰本國與堯並立周武王封箕子于朝鮮而賜之履西至于遼河世守疆域元朝一統釐降公主遼瀋地面以爲湯邑因置分省叔季失德天子蒙塵于外遼瀋頭目官等罔聞不赴又不修禮於本國卽與本國罪人奇賽因帖木兒結爲腹心嘯聚虐民不忠之罪不可逭也今舉義兵以問賽因帖木

兒等據于東寧城恃強方命哨馬前鋒盡行勦捕玉石俱焚噬臍何及凡遼河以東本國疆內之民大小頭目官等速自來朝共享爵祿如有不庭鑑在東京翌日師次城西十里是夜有赤氣射營熾如火日官曰異氣臨營移屯大吉遂班師野宿令士卒各作溷厠馬廐納哈赤躡後行二日曰作厠與廐師行整齊不可襲也乃還時中國人曰攻城必取未有如高麗者也

恭愍王二十一年壬子

〔參〕○六月倭寇東北界以太祖爲和寧府尹仍爲元帥以禦之遼城將處明

時年已老從太祖往和寧略下

辛禍八年壬戌

○七月以太祖爲東北面都指揮使時女真人胡拔都擄掠東北面人民而去以太祖世管其道軍務威信素著遣以慰撫之韓山君李

稽作詩送之曰松軒膽氣蓋戎臣萬里長城屬一身奔走幾經多故
日歸來同樂太平春如今大勢關宗社況是前鋒似鬼神聯袂兩朝
情不淺只將詩律送行塵

辛禍九年癸亥

○八月胡拔都又來寇端州副萬戶金同不花內應盡以財貨故後
陽爲被執上萬戶陸麗青州上萬戶黃希碩等累戰皆敗時李豆蘭
以母喪在青州太祖使人召謂之曰國家事急子不可持服在家其
脫衰從我豆蘭乃脫衰服拜哭告天佩弓箭從行與胡拔都遇於吉
州平豆蘭爲前鋒先與戰大敗而還太祖尋至胡拔都著厚鎧三重
襲紅褐衣乘黑牝馬橫陣待之意輕太祖留其軍士拔劍挺身馳出
太祖亦單騎拔劍馳進揮劍相擊兩皆閃過不能中胡拔都未及騎
馬太祖急回騎引弓射其背鎧厚箭未深入卽又射其馬洞貫馬倒

而墜太祖又欲射之其麾下大至共救之我軍亦至太祖縱兵大破
之胡拔都僅以身遁去太祖因獻安邊之策曰北界與女真達達遼
瀋之境相連實爲國家要害之地雖於無事之時必當儲糧養兵以
備不虞今其居民每與彼俗互市日相親狎至結婚姻而其族屬在
彼誘引而去又爲鄉導入寇不已唇亡齒寒非止東北一面之憂也
且兵之勝否在於地利之得失彼兵所據近我西北舍而不圖乃以
重利遠啗我吾邑草甲州海陽之民以誘致之今又突入端州禿魯
兀之地驅掠人物以此觀之我之要害地利形勢彼固知之矣臣受
任方面不可坐視謹籌邊策以聞

略下

辛禍十四年戊辰

○初大明帝以爲鐵嶺迤北迤東迤西元屬開元所管軍民漢人女
真達達高麗仍屬遼東崔瑩集百官議之皆以爲不可與禍與瑩密

議攻遼公山府院君李子松就瑩第力言不可瑩托以子松黨附林
堅味杖流全羅道內廂尋殺之禍得西北面都安撫使報遼東兵至
江界將立鐵嶺衛泣曰羣臣不聽吾攻遼之計使至於此大明復遣
遼東百戶王得明來告立鐵嶺衛三月禍獨與瑩決策攻遼然猶未
敢昌言也托言遊獵西幸海州四月次鳳州謂太祖曰寡人欲攻遼
陽卿等宜盡力太祖曰今者出師有四不可以小逆大一不可夏月
發兵二不可舉國遠征倭乘其虛三不可時方暑雨弓弩膠解大軍
疾疫四不可禍頗然之太祖既退謂瑩曰明日宜以此言復啓瑩曰
諾夜瑩入白願毋納他言明日禍語太祖曰業已興師不可中止太
祖曰殿下必欲成大計駐駕西京待秋出師禾穀被野大軍足食可
以鼓行而進矣今則出師非時雖拔遼東一城雨水方降軍不得前
却師老糧匱祇速禍耳禍曰卿不見李子松耶太祖曰子松雖死美

名垂於後臣等雖生已失計矣何用哉禍不聽太祖退而涕泣麾下
士曰公何慟之甚也太祖曰生民之禍自此始矣禍次平壤督徵諸
道兵作浮橋于鴨綠江又發僧徒爲兵加瑩八道都統使以昌城府
院君曹敏修爲左軍都統使太祖爲右軍都統使遣之左右軍共五
萬餘人衆號十萬將出師禍醉日晏不興諸將不得拜辭及醒泛舟
石浦至夕乃還飲諸將酒諸軍發平壤瑩啓曰今大軍在途若淹延
旬月則大事不成臣請往督之禍曰卿行則誰與爲政瑩固請禍曰
然則寡人亦往矣有人自泥城來曰近遼東兵悉赴征胡城中但有
一指揮耳大軍若至可不戰而下瑩大喜厚給其人禍停洪武年號
令國人復胡服常幸大同江張胡樂于浮碧樓自吹胡笛樂而忘返
每出遊輒奏胡樂令倡優呈百戲瑩日領軍士出入吹笛君臣荒淫
殺戮日甚百姓怨咨禍遣使賜諸將金銀酒器五月大軍渡鴨綠江

次威化島亡卒絡繹於道禍命所在斬之不能止左右軍都統使上言臣等乘桴過鴨江前有大川因雨水漲第一灘漂溺者數百第二灘益深留屯洲中徒費糧餉自此至遼東城其間多有巨川似難利涉近日條錄不便事狀以聞未蒙俞允誠惶誠懼然當大事有可言者而不言是不忠也安敢避鈇鉞而嘿嘿乎以小事大保國之道我國家統三以來事大以勤玄陵於洪武二年服事大明其表云子孫萬世永爲臣妾其誠至矣殿下繼志歲貢之物一依詔旨於是特降誥命賜玄陵之謚冊殿下之爵此宗社之福而殿下之盛德也今聞劉指揮領兵立衛之言使密直提學朴宜中奉表計稟策甚善也今不俟命遽犯大邦非宗社生民之福也況今暑雨弓解甲重士馬俱憊驅而赴之堅城之下戰不可必勝攻不可必取當此之時糧餉不給進退維谷將何以處之伏惟殿下特命班師以答三韓之望禍與

瑩不聽遣宦者金完督令進兵左右軍都統使留完不遣又遣人詣瑩請速許班師瑩不以爲意軍中訛言太祖率麾下親兵向東北面已上馬矣軍中洶洶敏修罔知所措單騎馳詣太祖涕泣曰公去矣吾儕安往太祖曰予何去矣公勿如是太祖乃諭諸將曰若犯上國之境獲罪天子宗社生民之禍立至矣予以順逆上書請還師王亦不省瑩又老耄不聽盍與卿等見王親陳禍福除君側之惡以安生靈乎諸將皆曰吾東方社稷安危在公一身敢不唯命是從於是回軍到鴨綠江乘白馬御彤弓白羽箭立岸上遲軍畢渡軍中望見相謂曰自古以來未有如此人自今以後豈復有如此人時霖潦數日水不漲師旣渡大水驟至全島墊溺人皆神之時童謠有木子得國之語軍民無老少皆歌之漕轉使崔有慶聞大軍回奔告于禍是夜上王與其兄芳雨及李豆蘭子和尙等自成州禍所奔于軍前禍日

午猶未知道遇支應守令盡奪其馬匹以行禍知大軍回至安州馳還京城回軍諸將請急追太祖曰速行必戰多殺人矣每戒軍士汝輩若犯乘輿予不爾赦奪民一爪亦當抵罪沿路射獵故緩行師自西京至京城數百里之間從禍臣僚及京城之人傍邑之民以酒漿迎謁者絡繹不絕東北面人民及女真之素不從軍者聞太祖回軍爭奮相聚晝夜星奔而至者千餘人禍奔還入于花園瑩欲拒戰命百官兵仗侍衛聚車塞巷口六月朔太祖屯崇仁門外山臺巖遣柳曼殊入自崇仁門左軍入自宣義門瑩逆戰皆却之太祖之遣曼殊也謂左右曰曼殊目大無光膽小人也往必北走果然時太祖放馬于野及曼殊奔還左右以白太祖不應堅臥帳中左右再三白之然後徐起進膳命鞍馬整兵將發有矮松一株在百步許太祖欲射松卜勝否以一衆心遂射之一矢松株立斷乃曰再甚麼諸軍士皆賀

鎮撫李彥出跪曰陪我令公往何處不可行乎太祖由崇仁門入城與左軍犄角而進都人男女爭持酒漿迎勞軍士曳車以開路焉老弱登山望之懽呼踴躍敏修黑大旗太祖黃大旗黑旗至永義署橋爲瑩軍所奔俄而黃旗由善竹登男山瑩麾下安沼率精兵先據望旗奔潰太祖遂登巖房寺北嶺吹大螺一通時行兵諸軍皆吹角獨太祖軍吹螺都人聞螺聲皆知爲太祖兵於是軍圍花園數百重禍與靈妃及瑩在八角殿郭忠輔等三四人直入殿中索瑩禍執瑩手泣別瑩再拜隨忠輔而出太祖語瑩曰若此事變非吾本心然非惟逆大義國家未寧人民勞困冤怨至天故不得已耳好去好去相對而泣遂流瑩于高峯縣侍中李仁任嘗言曰李判三司須爲國主瑩聞之甚怒而不敢言至是嘆曰仁任之言誠是矣兩都統使及三十六元帥詣闕拜謝韓山君李穡與留都耆老宰樞謁太祖太祖與穡

語良久還軍門外先是潛邸里有童謠曰西京城外火色安州城外烟光往來其間李元帥願言救濟黔蒼未幾有回軍之舉

恭讓王三年辛未

十二月○兀良哈及斡朶里來朝爭長斡朶里曰吾等之來非爭長也昔侍中尹瓘平吾土立碑曰高麗地境今境內人民皆慕諸軍事威信而來耳遂不與爭太祖享兀良哈斡朶里於邸以其誠服也

元年八月

○甲子兀良哈來

○丙子遣判禮賓寺事丁子偉押進獻馬一千匹至遼東交割而還

太祖實錄 卷二

元年九月

○己丑上視朝琉球國使吾良哈人等參朝琉球位於東五品之下吾良哈位於西四品之下其從者位於六品之下琉球獻方物
壬寅（甲辰）○賜衣兀良哈

元年十一月

丙戌○遣判司宰監事李乙修押馬一千匹至遼東交付

〔參〕丙戌○慶尙道兵馬都節制使崔有璉解送溫州府樂清縣人李順等三人順等被倭寇劫掠至海中島竊小船得脫至合浦有璉解送上給衣糧就付李乙修管送京師

元年十二月

太祖元年 壬申（洪武二十五年）

○庚午遣監察于義州等處禁人越疆貿易
元年後十二月

○庚寅兀郎哈來獻方物

太祖實錄 卷三

二年正月

○丁未朔上率羣臣賀帝正始服朝制冠服禮畢上坐殿受中外朝賀都評議使司上箋各道都節制按廉牧都護府使皆上箋獻方物楊廣道按廉使趙璞獻歷代帝王爲學爲治綱目之圖交州江陵道按廉使鄭擢獻師尙父奉丹書戒武王之圖及大學衍義二部幹都里獻生虎仍賜宴羣臣左侍中趙浚奉觴稱壽曰元正首祚臣等不勝大慶謹上千歲壽羣臣皆三呼千歲上盡觴許羣臣坐羣臣再拜就坐極歡而罷暮使軍器監設火戲觀之

二年三月

甲戌○西北面都巡問使趙溫擊倭寇于隨州獲寧海州人李唐信

以獻命給衣糧遣前判典儀寺事金乙祥管送遼東

二年四月

○丁丑西北面都巡問使趙溫報上國使臣脫歡不花以推刷舊管下人民事來蓋脫歡不花本東北面人在前朝己巳歲以帝命就去者也

○庚辰遣前密直使朴原聘遼王府前密直副使柳雲^(聘力)聘寧王府

○丁亥脫歡不花來

〔參〕庚寅○西北面都巡問使趙溫報秦王府差人爲易換牛隻到義州命都

承旨李稷議於都評議使司修撰秦府回答咨文以來

〔參〕辛卯〔癸巳〕○命前密直權鈞賚咨往見秦府人辭以易換之難仍送遺

內醞苧麻布

〔參〕己亥○脫歡不花獻角弓二張傳旨曰余昔爲將帥時可受今安用爲卽

欲相見方以微疾湯浴而還體甚羸憊請且就館間二三日可得相見命

中官一人饋送

二年五月

〔參〕○辛亥賜脫歡不花苧麻布以及從者

乙卯〔丁巳〕○脫歡不花還京師

○庚申賜吾郎哈五人衣各一襲

○辛酉中樞院奉教以吾良哈宮富大爲同良等處上萬戶給牒曰凡事公勤毋得緩弛

○丁卯欽差內史黃永奇崔淵等奉帝手詔來上率百官迎于宣義門外前導至壽昌宮聽詔行禮詔曰一曩者說兩浙民中不良者爲爾報消息已戮數十家矣其高麗山川鬼神豈不知爾造禍殃及於民此生費一也一遣人至遼將布帛金銀之類假以行禮爲由意在

誘我邊將此生釁二也一近者暗遣人說誘女直帶家小五百餘名潛渡鴨江罪莫大焉此生釁三也一口稱稱臣入貢每以馬至令參馬調之馬皆駑下亦皆乘乏勞倦者侮之一也一更國號一節遣人請旨許爾自爲或祖朝鮮爾爲苗裔使者既還杳無音信反作釁端侮之二也嗚呼自元季中原擾攘民被兵殃英雄遍處轉戰殺傷幾將二紀朕已平之矣然中國既定四夷生邊釁及不庭者命將討之又二紀于茲蠻夷率服海外諸島來庭邇來國中或生亂臣賊子今年春擒捕族誅姦黨已絕朕將化鋒刃爲農器撫戰士以忘昔勞厚養金傷者欲終于家致諸將衣輕裘乘肥馬翫四時之景以享太平乃何爾高麗速構兵殃朕又將昭告上帝命將東討以雪侮釁之兩端若不必師至三韓將誘女直之人全家發來并已往女直大小送回朕師方不入境上禮畢宴內史于殿上內史二人皆國人也

己巳○上以帝命推刷泥城江界等處來投女直人物上謂左右曰帝以兵甲衆多政刑嚴峻遂有天下然以殺戮過當元勳碩輔多不保全而乃屢責我小邦誅求無厭今又責我以非罪而賚我以動兵是何異恐喝小兒哉都承旨李稷曰然則何以對之上曰吾且卑辭謹事之耳命與侍中趙浚金士衡等議所以奏聞

二年六月

○乙亥朔遣中樞院學士南在奉表帝京曰誠命昭示於丁寧天威不違於咫尺茲深悚懼用切籲呼竊念以庸陋之資處僻遠之地然粗聞聖賢之垂訓故得知華夏之當尊洪武二十一年辛禍崔瑩等妄興師旅欲向遼東二十五年王瑤鄭夢周等繼禍邪志將犯上國臣曉諭一國臣民以謂夷不可以亂華下不可以犯上衆皆知其逆順彼咸服其罪辜非但上天之明知實惟聖鑑之灼見屢奉曰兪之

命常懷圖報之誠謹修歲時無怠職貢今者欽奉手詔節該一欵曩者說兩浙民中不良者爲爾報消息一欵遣人至遼以布帛金銀之類假以行禮爲由意在誘我邊將一欵近者暗遣人說誘女直帶家小五百餘名潛渡鴨綠一欵口稱稱臣入貢每以馬至令參馬者調之馬皆駑下亦皆乘乏勞倦一欵更國號一節遣人請旨許爾自爲或祖朝鮮爾爲苗裔使者旣還杳無音信欽此有王瑤自構其逆釁致國人不義其所爲退處于家獲保其命妻子之團圞自若朝夕之奉養如常瑤雖至昏豈不自反茲乃聖恩之所及可明臣心之無他且夫兩浙之民消息本無相報況在王氏之日情狀何與於臣至若行禮於遼東是亦景仰於上國當使介往來之際有賓主交接之儀在禮則然於誘何敢其有女直隸于東寧旣皆作軍而當差安肯遣人而說誘但遼東都司起取脫歡不花之時其管下人民或有不卽

隨行者由彼安土非臣勒留無所供於我邦各自守其舊業欽依手詔事意將脫歡不花原管人民安土不卽隨行者差人取勘見數發送遼東曩有本國人民往投遼東懷思鄉土及親戚或復逃來潛隱山谷之間臣初不知節次據遼東來文差人根緝獲到臣以謂雖其本系出於小邦之民然其姓名載於官軍之籍不宜容置曾已發還其逃來未獲者不知女直高麗旣係逃軍不行出首未審潛隱去處今爲差人遍行搜捕隨卽起解情迫驚恐先此奏陳抑貢馬之非良迺土性之所致措辦之數斯夥矣駑下之材或有焉詔旨又曰奈何爾高麗速搆兵殃欽此誠惶誠懼臣雖鄙愚不至狂妄蒙上之德而忌其德責人之尤而效其尤固非人情安有是理臣如欺罔天實照臨念臣以一身之微出萬死之計首倡大義以絕禍萌良由事大之忠多取羣小之怨前者尹彝李初等潛赴朝廷妄搆是非幸蒙睿照

得達卑情既遭聖明而以爲依歸雖有讒搆而不自憂恤豈圖貝錦又干冕旒每盡力於虔供獨何心而侮釁逢天之譴無地自容伏望皇帝陛下垂日月之明擴乾坤之度察讒人交亂四國憐小臣永肩一心特霽洪恩俾安遠俗臣謹當臣節益堅於終始皇齡倍祝於康寧

○庚辰遼東都指揮使司差千戶高闊闊出賣禮部咨來其咨曰洪武二十六年二月二十八日禮部署部事儀部主事蓋霖等官將遼東都司實收過高麗節次解到馬數於奉天門奏奉聖旨爾禮部照依馬數將紵絲縣布差官運去給還他價欽此除欽遵外今將該給馬價段匹縣布差指揮同知王鼐等管運前去計實收過馬九千八百八十四匹給紵絲縣布各一匹共運去各色紵絲縣布一萬九千七百六十四匹紵絲九千八百八十四匹縣布九千八百八十四匹

○甲申高闊闊出還

甲申（丁亥）○遣知中樞院事趙琳受馬價于定遼衛

〔參〕○辛卯遣判三司事尹虎賀聖節遣參知門下府事金立堅謝賜馬價其表曰正使建陽衛指揮同知王鼐等官賣捧到禮部咨臣欽蒙聖慈給還節次解到馬價臣與一國臣民不勝感激者聖恩既渥天貺實優登受以還感銘無已竊念臣猥以庸稟幸際明時誓修職分之常小蒼生成之造近者欽依措辦節次解送馬匹產從僻壤本乏良才恐不充於天閑何敢望於價幣恩非意及感與愧并茲蓋伏遇皇帝陛下推同仁一視之心舉厚往薄來之典遂令遠俗得荷殊私臣謹當倡率一方益勵虔供之志用祈萬壽永殫頌禱之誠

太祖實錄 卷四

二年七月

〔參〕丁未—〔庚戌〕〇以門下侍郎贊成事鄭道傳爲東北面都安撫使

辛未〇賀聖節使金立堅從行通事郭海龍來告立堅至白塔遼東都司不納曰帝詔自今高麗人不許過來

〇壬申兩府耆老會議以海龍來告事

二年八月

〔參〕乙亥—〔戊寅〕〇以李之蘭代鄭道傳爲東北面都安撫使

乙亥—〔戊寅〕〇賀聖節使金立堅謝恩使尹思德等至遼東不得入而還

〇欽差黃永奇崔淵等還京師上送于西郊遣中樞院副使李至賈

請通朝路表并押領女直男女四百餘口赴京其表曰陪臣知門下府事金立堅等到遼東蒙都司稱有聖旨朝鮮進表進獻一應使臣不許將過來欽此回還臣與國人不勝隕越仰陳鄙抱者以小事大當修聘獻之儀居高聽卑庸切籲呼之懇惟高麗邈處要荒之地不知禮義之方辛禍構釁於攻遼王瑤踵謀於猾夏而臣舉逆順之義除禍亂之萌聖鑑孔昭卑忱是察俾權軍國之務許襲朝鮮之名爰自受命以還益謹爲藩之禮忽承有嚴之譴責實惟罔措以兢惶伏望皇帝陛下以乾坤生物之心爲心以父母愛子之念爲念擴包容之量通往來之途則臣謹當職貢無怠於歲時皇靈永祝於悠久

乙亥—〔戊寅〕〇趙琳等賈馬價來自遼東

〔參〕〇乙酉遣東北面都安撫使李之蘭城甲州孔州

乙酉—〔丁亥〕〇司憲府論劾中樞院副使具成老至遼東與同列趙

胖相詰取譏又私換進獻馬價綵段之罪上罷成老職
○戊子謝恩使李恬回自京師恬入見帝責其跪不正且俛其首棒
恬幾死令飲藥得活及其還至遼東不給驛徒步而來詔遼東不納
朝鮮之使

壬寅○遣前密直副使曹彥管送遼東逃來人口咨禮部曰洪武二
十六年五月二十三日欽差內史黃永奇等至欽奉手詔內一欵節
該近者暗遣人說誘女直帶家小五百餘名潛渡鴨綠江罪莫大焉
欽此臣與一國臣民驚惶震懼措身無地謹遣陪臣密直提學南在
奉表陳情去訖竊照本國軍民節續逃往遼東投充軍丁其有懷思
鄉土或復逃來山谷之間潛隱者臣初不知節次據遼東都司來文
往往尙且擒獲解送況女直人等言語異別本非同類安敢遣人說
誘潛渡鴨江前來今欽奉詔旨劃卽差人於西北面各府州郡縣緝

捉到年月不等逃來原係本國人朴龍等一百二十二戶并家小三
百八十八名枷杻赴遼東都司交割昨前起取脫歡不花之時其所
在人民皆非脫歡不花父祖管屬雖有管屬人民於洪武十六年間
被千戶徐便胡拔都招引前去或有不卽隨行安居本土者亦非小
國勒留今來欽奉聖旨隨卽差人取勘到女直人仇乙吐等二十五
戶并家小一百一十六名就付右軍都督府差來千戶王脫歡不花
管領及僻屯口子原把截千戶金完貴一同起解

二年九月

〔參〕癸卯朔○頒朝廷所賜馬價

〔參〕○甲辰奏聞使南在回自京師曰帝厚待之且命曰爾國使臣行李往來
道遠費煩自今三年一朝

○己未進表使李至至遼東不得入而還

〔參〕○癸亥遣中樞院學士李稷赴京謝恩仍請依舊朝聘表曰陪臣南在回自京師欽蒙宣諭切至臣與國人不勝感激者聖訓諄諄廓示包容之量臣心斷斷茲懷感愧之私臣於當年六月間遣陪臣金立堅謝賜馬價七月又遣陪臣尹師德進賀聖節俱蒙遼東都司稱有聖旨阻當回還欽此遣陪臣李至備具情由卽行聞奏撫微躬而罔措冀睿鑑之灼知今者陪臣南在傳奉宣諭聖旨節該你回去對他說三年一貢看你至誠我使人叫你來欽此許通行李往來之途深荷聖人懷綏之惠茲蓋伏遇皇帝陛下仁以字小明以燭微察臣卑忱俾臣再造但歲時之疎也在臣心而缺焉願修貢之如常供祈天之有永

辛未○千秋進賀使朴永忠至甜水站不得入而還

二年十月

己亥○謝恩使李稷至白塔不得入而還

二年十一月

○壬子吾郎哈來

○壬戌司憲府請罪趙胖趙琳具成老胖等會赴遼東受馬價段子私竊易換請治其罪上令明察得情是日又請上曰二百餘匹豈能盡換若盡徵納必有冤枉獨其在逃押物可疑宜出榜諭示三日內自來者從末減以不畏官令論其不出者乃行徵納

二年十二月

○戊寅賀正使慶儀等至遼東不得入而還

○丁亥賜吾郎哈十餘人緜布衣

太祖實錄 卷五

三年正月

○壬子欽差內史盧他乃朴德龍鄭澄等賈左軍都督府咨文來上率羣臣出宣義門迎之其咨曰洪武二十六年十一月二十日據山東都司寧海衛解到高麗劫賊一名崔禿伊到府責據本人狀供係高麗肅州爐叱洞住人於洪武二十六年七月七日有高麗王諱上差萬戶金寺彥千戶車成富李富壽林原林清彥李佛壽洪忠彥百戶鄭隆洪原林忠彥領船七隻每船裝人三十七名布二細共計人二百五十九名布五百六十四匹假作買賣打聽消息說道若大軍不來時我起軍打遼東續後再差船十隻每船裝人三十七名各帶軍器共計人二百七十名又據解千戶金完貴供稱有女真係百戶金光

義卽金城判官任葛龍義令史藜均皮力等所爲并不干金完貴事各人見在畢屯口子住得此本府左都督楊文等官將各人供詞具本於奉天門奏奉聖旨恁都督府將這緣故行文書去教李諱知道這等假造倭賊又是他一次生釁就教他將誘女真的官吏送來欽此

三年二月

○己丑朝廷使臣金仁甫張夫介還上撰奏本一道就附以進率羣臣送至宣義門其奏曰洪武二十六年十二月初八日欽差內史金仁甫等至承准左軍都督府咨欽奉聖旨節該奈何高麗李諱自生邊釁連年不已其量不過恃滄海以環疆負重山以爲險所以數逞兇頑視我朝調兵如漢唐且漢唐之將長騎射短舟楫故涉海艱辛兵行委曲朕自平華夏攘胡虜水陸通征舟師諸將豈比漢唐之爲

若不必師至三韓將前後所誘女直大小送回及將誘引女直守邊千戶發來是後毋造詐謀以生邊釁使彼國之民妥妥方可爲東夷之主而後嗣亦昌欽此竊惟小邦臣事天朝至誠無二安敢自生邊釁壤地褊狹人民鮮少區區山海何足負恃以逞兇頑前後女直實無誘引今來欽奉前因兢惶殞越措身無地念臣先世本朝鮮遺種略中臣本武夫實無知見且臣先世在於高麗全無憑藉之勢幸賴聖恩致有今日感戴之誠有如天日況崔瑩夢周明鑑不遠臣若踵其邪謀聖恩雖欲恕臣國人豈肯恕之臣非木石何敢枉勞心力爲此無益之釁自速禍殃臣如欺罔天地鬼神臨之在上今將條欵情由逐一開坐謹具奏聞一欵節該朝廷每命將守遼彼卽遣人以布帛金銀之類假以行禮爲由意在誘我邊將欽此前件事理照得小邦凡遣使赴京必須經由遼陽前去特以朝廷爲重或以土產布匹行

禮此乃出於人情豈有相誘之理一欵節該近遣人至齊王處行禮所遣之人假爲異詞自謗彼國意在覘王動靜欽此前件事理照得小邦但凡遣使赴京經由齊府前去就於齊王殿下行禮且如其間或有言辭之失蓋是承差員人之過失非小國所知一欵節該已前數請願聽約束既久去後輒違前約暗誘女直帶家小五百餘名潛渡鴨綠果是願聽約束乎罪之大者無出此釁欽此前件事理照得小國軍民節續逃往遼東投充軍丁者或暫居住者本無誘引懷思鄉土還復逃來山谷之間潛住臣初不知近據遼東都司來文差人捉獲到小旗李閑休等并妻子二十三名起解遼東都司去後洪武二十六年五月十三日欽奉手詔隨卽於槩管西北面各府州郡縣緝獲到原係本國人朴龍等帶家小三百八十八名并把截千戶金完貴等責差前密直副使曹彥管押及將取勘到原居女直人仇乙

土等一百一十六名就付差來千戶王脫歡不花管領俱於洪武二十六年八月內根同欽差內使黃永奇崔淵等解付遼東都司交割了訖一欵近日遼東來奏今年七月內獲到劫賊一名審係高麗海州青山把截千戶哈都干下民名張葛買說稱高麗王將黑布三十筒著落哈都干撥船一十七隻每船軍四十名搖櫓人十八名百戶一名差燕江吳千戶管領於七月初五日起程船上人都做倭賊打扮船都刷黑詐作買賣哨探聲息若遇官軍只說是倭船沿路劫掠捉去安置火者九名殺死一名放回六名存留二名引路於七月二十八日(日脫力)夜到金州衛島梢泊吳千戶發放每船留軍一十名看守其餘軍人自引上岸燒劫新市軍屯擄去軍人并家屬共四名殺死二名殺傷三名一欵又假作倭賊撐駕船隻於山東寧海州登岸劫殺本州人民致被原拏去火者逃回說知前情欽此前件事理竊念小邦

臣事聖朝至誠不二何敢用遣小民撐駕船隻假作倭賊往金州山東等處登岸作賊殺傷人命其張葛買所稱詐作買賣哨探聲息臣實不知葛買是何等人且如作賊劫殺人情阻隔何緣得探事情其爲虛詐不辨自明前者尹彝李初逃赴京師罔搆是非欽蒙聖鑑明見萬里尹彝李初已伏其罪臣恐張葛買亦係此等不逞之徒被捉到官却行虛捏小國遣使如此冤枉上有天日口難控訴伏望聖慈欽差朝官將見獲劫賊張葛買發來與國人辨對便見虛實一欵節該表稱入貢每以馬至令參馬者調之馬皆駑下及乘乏勞倦者今次所貢馬內癘病無齒及不馴者居半其餘雖無節病亦皆駑下非至誠之物與其以此肆侮構禍孰若減少物精而意誠欽此前件事理照得小國所產馬匹本來矮小駑下凡遇貢獻之時儘力選辦進獻蓋由道路遠慮恐癘病疲弱者有之小邦安敢肆侮略中一欵節

該既許更國號使者回後杳無消息先遣人遼王寧王處行禮稱朝鮮國權知國事一月之後方纔進表謝恩尊卑之分故意先後欽此前件事理照得爲更國號謝恩事於洪武二十六年三月初九日差門下評理李恬賈擎表箋禮物赴京去後聞知遼王寧王受封到來臣以小邦與遼寧境壤相近特以朝廷爲重宜當行禮於當年四月初六日差前密直使朴原前密直副使柳雲等赴遼王寧王殿下行禮上項李恬蓋緣京師道路寫遠又兼將賈進獻鞍子禮物以致遷延到京何敢故意先後略下

〔參〕戊戌○以商議門下府事崔永沚爲安州義州泥城江界等處兵馬都節制使兼安州牧使

三年三月

○丙午判門下府事安宗源等至連山站不得入而還

○乙丑西北面都巡問使報朝廷使臣至義州其護送遼東軍虜我義州人李堅實姜寶鼎金龍等以歸

〔參〕○丙寅〔中略〕以陳忠貴爲商議中樞院事兼義州等處都兵馬使李龜〔鐵力〕商議中樞院事兼定州等處都兵馬使趙英茂商議中樞院事兼江界等處都兵馬使曹彥商議中樞院事兼泥城等處都兵馬使朴葳罷

三年四月

○癸酉欽差內史崔淵陳漢龍金希裕金禾等持左軍都督府咨來上率百官迎于宣義門外至闕淵等傳宣諭馬一萬匹闍人及金完貴家小與將來上跪聽訖叩頭略下

〔參〕○乙亥置進獻官馬所令時散各品出馬有差

○甲午欽差內史黃永奇等三人賈左軍都督府咨以來設綵棚儼禮上率百官出宣義門迎入壽昌宮其咨曰洪武二十七年三月二

十日本府僉都督李增枝等官於奉天門欽奉聖旨近日澉浦等處守禦官軍節次解到賊人胡德等五名供係高麗各處守把官差來沿海劫掠打聽消息恁左軍文書裏將續供出來的人并前日去的人姓名開寫去教^{諱上}長男或次男親自解來欽此本府除欽遵外今將後項合取人數開坐移咨照驗欽依照名解來一合取四十二名先次供出人二十五名今次續供出人一十七名總兵雲萬戶原成東寧誘引女直人三名俱係西北面土城碧屯口子住百戶金成品官林舉輪外郎李君必千戶金完貴家小一十三名右永奇等三人皆我國所遣闖人也

三年五月

戊午（辛酉）○遣司水監宋希靖管押金完貴家小赴京具奏曰洪武二十七年二月初七日有馬軍一十餘名到來鴨綠江邊馬山下

義州萬戶呂稱謂是上國使臣到來即遣州人金伯顏等三名過江迎接上項馬軍却將伯顏等捉去又於當年三月二十一日有欽差內史四員并遼東百戶軍人三十名到來婆婆府江邊義州萬戶呂稱過江迎接上項護送軍却將通事金龍鎮撫金寶鼎千戶李堅實等三名捉去切念小邦臣事聖朝略無疑貳與遼東都司境壤連接只隔一江凡遇朝廷欽差使命及遼東差使到來義州官吏必先過江迎接今後邊境百姓於使命到來心生疑懼違忤迎接以致得罪伏望聖慈令遼東都司將前項二次捉去金伯顏李堅實等推究放還以安小邦邊境民心

太祖實錄 卷六

三年六月

○己巳朔都評議使司上言今當卽位創始之初凡工作服飾器玩務從儉約垂法萬世紗羅綾綺各色真彩異方難繼之物金銀又每歲進貢上國尤爲難繼而乃上下通用人無定志況見利之徒因謀貿易潛行越境以生釁端其害不淺願自今紗羅綾綺及金銀粧飾之物進上服用及各官品帶外兩府以下至於庶人一皆禁止公私家舍及寺院勿用真彩承旨以上外不許用金玉纓子其油蜜果絲花鳳金銀著彩花草上國使臣燕享外亦皆禁斷上曰紗羅綾綺金銀珠玉各品官服鞍轡等級更議申聞其潛行越境興利者勿論錢物多少首從皆誅

己巳朔上(己卯)○上謂殿下曰天子若有所問非汝莫能對殿下對曰臣爲宗社大計豈敢辭避太祖揮淚曰汝體質羸瘦萬里之路其能保其無恙乎朝臣皆爲殿下危之南在曰靖安君有萬里之行吾輩安可枕枕死於此乎請自行乙亥上遂命我殿下及知中樞院事趙胖進表參贊門下府事南在進箋表曰欽差內史黃永奇等至承准左軍都督府咨欽奉聖旨節該將解到賊人胡德等供出來的人姓名開寫去教某知道長男或次男親自解來欽此誠命有嚴於自天述職莫親於遣子茲將卑懇庸瀆聰聞切念臣蒙上至恩致身今日謹修蕃宣之職貢每通行李之往來於洪武二十六年節次遣陪臣金立堅賈擎表箋謝賜馬價陪臣尹思德賈擎表文進賀聖節俱蒙遼東都司稱有聖旨阻當回還欽此卽遣陪臣李至請通道路又遣陪臣朴永忠進賀千秋陪臣慶儀進賀二十七年正朝俱到遼東

仍蒙都司如前阻當回還欽此一國臣民兢惶無奈間當年十二月初八日欽差內史金仁甫等來至承准左軍都督府咨欽奉聖旨內一欵朝鮮已許自爲卽合正名今更號朝鮮表文仍稱權知國事未審何謀欽此臣愚以爲國號則旣已欽依明降更號朝鮮王爵則未蒙頒降國王名爵不敢稱王今來欽奉聖旨卽合正名欽此又承准左軍都督府咨內右咨朝鮮國王准此欽遵施行修撰表箋遣陪臣安宗源等赴京謝恩到遼東如前蒙都司阻當回還臣與國人尤增隕越仰皇天而永號冀聖心之克灼尙慮路阻未達旒聰何圖睿恩之忽霑許令賤息以入覲如窮子之投母若行者之赴家感與喜并涕從言出所據劉肚兒等究求本邦之人氏並無此等之姓名唯任葛龍義之爲林舉輪與藜均皮力之爲李君必或因職役之相似或因聲韻之偶同推類以求發解已去豈於劉肚兒等獨自占咨故令

勒留臣又以爲胡德等所供打聽消息尤爲誣妄日月中天凡有耳目者莫不知見聖神御極凡有血氣者莫不尊親顧我小邦臣事聖代久諳人民甲兵之富深服禮樂刑政之修何至待小兒之行然後知中國之事況本無疑貳之心又安有覬窺之謀如此事情已曾具本奏達去訖伏望皇帝陛下推字小之仁擴包荒之量憐臣抱屈而無訴許臣効忠而自新臣謹當永爲蕃翰於一邦恒祝康寧於萬世甲申(丙戌)○以崔淵所傳宣諭遣判奉常寺事金乙祥押進獻馬五百匹至遼東交割而還

(左力)
〔參〕甲午○林舉輪李君必來初以五軍都督府咨責取人姓名相近解送帝遣還

○乙未李堅實康寶鼎金龍等來堅實等至帝引見問我邊境事還遣

三年七月

己亥○以李堅實放回事具奏本謝恩于帝令節日使趙琳賈進其奏曰洪武二十七年三月二十一日遼東都司差人到鴨綠江千戶李堅實鎮撫康寶鼎通事金龍等三名過江迎接致被捉去邊境居民驚恐無奈具本奏達間洪武二十七年六月二十八日前項李堅實等三名前赴京師欽蒙宣諭放回具言重蒙聖恩賞賜回還臣與國人欣感罔極

庚戌○教都評議使司曰予聞遼陽人謂我曰朝鮮所以生釁者僧徒爲之遊說耳自今僧徒往來西北面者令皆誅之

三年八月

乙亥（戊寅）○遣開城尹李茂謝許通道路表曰臣言屢次遣陪臣金立堅尹思德李至朴永忠慶儀安宗源等賈擎表箋前赴京師到

遼東俱蒙都司阻當回還驚惶隕越間欽蒙聖慈令臣男上今諱及陪臣南在趙胖趙琳等赴京臣與國人不勝感激者大聖之德惟在包荒遠人之心舉忻通路感深銘骨涕出交頤（下）

○戊子遣司水監宋希靖獻馬一千匹至遼東交割而還

〔參〕戊子○令百官各品出馬有差

三年九月

○壬寅遣前工曹典書任壽獻馬五百匹至遼東交割而還

三年十月

○辛未西北面都節制使崔永沘執送挈家來投人一名善吹簫曰大平簫

三年十一月

〔參〕乙卯（辛酉）○我殿下回自京師南在趙胖隨至（下）

三年十二月

○己卯多完人夫彥吾都里人所吾等來獻方物上各賜衣一襲令中樞院給牒爲萬戶

太祖實錄 卷七

四年正月

○辛丑孔州以北吾郎改萬戶蒙尙千戶甫里等遣人來獻土物賜木縣紬紵有差

○甲寅吾郎哈萬戶波所千戶照乙恠李都介等來獻土物各賜衣服

甲寅—(丁巳)○人有自遼東來者命中郎將鄭安止管押發還四年二月

乙丑朔○西北面人金法華鄭大等七人棄市皆犯令越境者也

○辛未吾都里十人來獻土物賜米布厚慰之

○丙戌遣通事金乙祥管送遼東逃軍金不改等二十五名

四年四月

〔參〕○壬申中略以陳乙瑞爲西北面兵馬都節制使平壤尹

乙酉○遣工曹典書楊添植獻馬五百匹至遼東交割而還

四年五月

○癸卯遣前典農正崔子雲獻馬一千匹至遼東交割而還

○庚戌斬遼東僧覺悟初悟來言上國欲加兵於我乃囚巡軍獄鞫

之悟曰遼東閔千戶以各衛軍赴征疑朝鮮人擣虛使來觀變

太祖實錄 卷八

四年七月

○己亥遣金乙祥赴京奏聞曰中略間洪武二十八年四月二十五日

遼東都司抄蒙禮部批文爲差百戶姚忠伴送本國奄人張夫介等

二十六名到來義州交付還國准此竊詳上項奄人張夫介等節次

欽奉聖旨起取赴京職當小心謹慎給事宮中不期張夫介等奸頑

不肖干犯法令欽蒙聖慈不卽與罪發遣本國卑職委實驚懼措身

無地爲此隨卽委官究問各人所犯情由下略

甲辰丁未○遼東百戶夏質淦死鴨綠江質護送進馬使楊添植

到義州買牛還渡江時水方漲至中江牛驚墮墮舟遂覆同舟者皆

死

四年八月

○己卯遣殿中卿郭敬義押馬一千至遼東交割而還

四年九月

己酉(匹力)○遣判司農寺事玉山奇押馬五百匠(匹力)至遼東交割而還

四年後九月

○己巳吾都里上萬戶童猛哥帖木兒等五人來獻土物

四年十月

乙卯(庚申)○遣官咨禮部曰陪臣金乙祥回自京師言蒙差赴京欽奉聖旨火者崔加勿帶引回去欽此將引崔加勿到遼東蒙都司稱有聖旨不許護送乙祥等徒步還來了據此參照小邦臣事聖朝凡有差人赴京回還至遼東每蒙都司護送沿途庶無疎失今據金

乙祥來言切見小邦鴨綠江西至遼東甜水站其間人烟斷絕草木叢茂若無護送慮恐盜賊劫掠虎狼侵害煩為聞奏乞賜明降遼東都司仍前護送施行

四年十一月

〔參〕○丙寅節日使金立堅回自京師曰通事宋希靖押馬權乙松等被流遐方初計稟使金乙祥道經燕邸復于上曰燕王謂臣曰爾國王何不送馬於我上信之立堅去時仍附鞍馬以送燕王受之以聞帝曰朝鮮王何得私交乃流希靖乙松于金齒衛再流騰衝府

四年十二月

癸卯○吾郎哈水吾狄介等四人來三國之末平壤以北悉為野人游獵之所高麗時徙南民以實之自義州至陽德徑築長城以固封疆(疆力)然不安其居數為畔亂至於用兵以討之義州土豪張氏不遵朝

命南方之地倭寇肆暴東西數千里去海數百里屠燒城郭暴骨原野絕無人烟安邊以北多爲女真所占國家政令不能及睿宗遣將深入克捷有功建置城邑然尋復失之羈縻而已上受命以後聲教遠被西北之民安生樂業田野日闢生齒日繁義州張思吉願隸上麾下得與開國功臣之列自後張氏無復反側自義州至閩延沿江千里建邑置守以鴨綠江爲界烏倭革面來朝復通商賈南道之民安心奠居戶口益增雞鳴狗吠相聞濱海之地斗絕之鳥墾田無遺不知兵革日用飲食而已東北一道本肇基之地也畏威懷德久矣野人酋長遠至移闌豆漫皆來服事常佩弓劍入衛潛邸昵侍左右東征西伐靡不從焉如女真則幹朶里豆漫夾溫猛哥帖木兒火兒阿豆漫古論阿哈出托溫豆漫高卜兒闕哈闌都達魯花赤奚灘訶郎哈參散猛安古論豆闌帖木兒移闌豆漫猛安甫亦莫兀兒住海

洋猛安括兒牙火失帖木兒阿都哥猛安奧屯完者實眼春猛安奚灘塔斯甲州猛安雲剛括洪肯猛安括兒牙兀難海通猛安朱胡貴洞秃魯兀猛安夾溫不花幹合猛安奚灘薛列兀兒忽里猛安夾溫赤兀里阿沙猛安朱胡引荅忽紉出闊失猛安朱胡完者吾籠所猛安暖秃古魯奚灘孛牙土門猛安古論孛里阿木刺唐括奚灘古玉奴兀郎哈則土門括兒牙八兒速嫌真兀狄哈則古州括兒牙乞木那答比那可兒答哥南突兀狄哈則速平江南突阿刺哈伯顏闊兒看兀狄哈則眼春括兒牙秃成改等是也上卽位量授萬戶千戶之職使李豆蘭招安女真被髮之俗盡襲冠帶改禽獸之行習禮義之教與國人相婚服役納賦無異於編戶且恥役於酋長皆願爲國民自孔州迤北至于甲山設邑置鎮以治民事以練士卒且建學校以訓經書文武之政於是畢舉延袤千里皆入版籍以豆滿江爲界江

外殊俗至於具州聞風慕義或親來朝或遣子弟或委質隨侍或請受爵命或徙內地或進土物者接踵於道所畜之馬若產良駒皆不自有爭來獻之近江而居者有與國人爭訟則官辨其曲直或囚之或笞之莫敢有怨於邊將蒐狩之時皆願屬三軍射獸則納官犯律則受罰與國人無異後上幸東北面謁山陵江外野人爭先來見路遠不及者皆垂涕而返野人至今慕德每從邊將飲酒酣言及太祖時事必感泣不已

太祖實錄 卷九

五年四月

○癸丑以前判典農寺事柳楊押馬五百匹至遼東交割

太祖實錄 卷十

五年八月

〔參〕癸丑〔九月丙辰〕○是月西北面都巡問使請城寧朔鎮從之

五年十月

○壬寅遣殿中卿郭敬儀管送遼東逃軍樓近道等二十五名
壬寅〔丙午〕○斡都里所乙麻月者等來獻方物賜苧麻縣布二十匹

五年十一月

○庚申謝恩進表使權仲和進箋使具成老被留使臣柳珣鄭臣義回自京師臣義來傳左軍都督府咨其咨曰本府左都督楊文等官欽奉聖旨去年五月朝鮮國進馬使臣楊添植等回還本國遼東都

司差百戶夏質軍人劉頑子等一十名護送楊添植等抵鴨綠江至彼進馬使臣以好意諭說百戶并旗軍等到鴨綠江左至義州萬戶府處館驛內安下以微禮相待問其中諭說辭多百戶夏質不然其說然後發到鴨綠舟至中流內船夫一名將百戶夏質項下衣領鎖紐住一同投江以致百戶沉江渰死此果朝鮮國王之謀歟抑義州萬戶之不仁歟以此輕薄奸詐擅生釁端恁左軍都督府移文朝鮮國王令義州萬戶前來回話

丁丑〔甲申〕○賜鄉判三司事僕長壽雞林長壽回鶻人也

○又遣司譯院舍人崔雲管送前義州都兵馬使陳忠貴于京師咨左軍都督府曰承准來咨本府左都督楊文等官欽奉聖旨節該去年五月朝鮮國進馬使臣楊添植等還國遼東都司差百戶夏質護送至彼以致百戶沉江渰死恁左軍都督府移文令義州萬戶前來

回話准此行據都評議使司狀啓責得陳忠貴狀供洪武二十八年六月十五日有遼東都司差來百戶夏質帶領軍人十四名護送楊添植到來本州館驛安歇爲因梅雨水泛漲留住十日不能前渡至當月二十五日天晴夏質催併帶來軍人將本州小槽兒船六隻內四隻遣令軍人十一名乘坐先到鴨綠江到婆婆府去訖內二隻連拴做一船百戶夏質噴恠過江遲滯帶領軍人劉丑兒等三名并本州船梢吳乙冲吳伯等五名乘坐渡江去了當日申時劉丑兒等三名隔江呼喚卽時令人將小船還渡劉丑兒等前來告說丑兒等根同夏質帶領船梢吳乙冲等五名渡涉鴨綠江渡第三渡西江船至江心水急爲所載牛隻跌倒以致踏船翻覆眼見百戶夏質并船梢吳伯渰死其餘船梢吳乙冲等四名不知去向丑兒等浮水得出忠貴聽此卽使差人同劉丑兒等撐駕小船十隻沿江撈覓夏質屍

體經及數日不見將此事因已經申報遼東都司去訖所供上項詞因皆是聽據劉丑兒等及吳乙冲等回來所說並不會親見夏質溺死事由所供是實得此謹錄狀啓據此今准欽奉事理將萬戶陳忠貴及其時同渡船梢人等責差通事崔雲管送赴京前去

太祖實錄 卷十一

六年正月

丁丑○賜吾郎哈八乙速甫里仇里老甫乙吾高里多時等五人吾都里童猛哥帖木兒童所吾馬月者童於割周豆乙於等五人各綵紬絹綵緜布苧布有差

六年四月

戊戌○賜吾都里亏狄哈等四人及降倭灰六都時老等五人各衣一襲

六年六月

癸卯—(丁未)○柳雲回自遼東啓曰臣敬蒙差遣賈領謝恩進獻禮物馬匹四月二十一日到遼東蒙都司差官赴京奏聞去後住經四

十二日至六月初三日欽差行人劉貴篋欽賈聖旨前來遼東對臣等開讀仍欽傳宣諭將進獻禮物馬匹盡行點數交付回還並將到禮部左侍郎張炳書信一紙付臣臣欽依收領來了其書曰爾者遼左使至言及朝鮮國王遣人致謝禮至境上本部即時奏至尊有云朝鮮之國限山隔海風殊俗異天造地設本東夷之國然與中國相邇王者有道修睦隣之好禮尙往來擗節時宜而至是其當也今來云稱行謝禮未知中國以何恩意及於朝鮮致行謝禮況非時節禮不可納若欲安生民於市野不必頻勞使者往復艱辛以靜治國毋生邊釁區區以至尊之至意荅王王其圖之

太祖實錄 卷十二

六年九月

〔參〕○庚戌朔以兵曹典書全伯英爲西北面宣慰使歷觀諸郡可城之地以聞

六年十二月

〔參〕○庚子以奉化伯鄭道傳爲東北面都宣撫巡察使敎曰予以否德承祖宗積累之德奄有東方六年于茲報本之誠實切于衷是用稽諸古典追王四代首建寢廟塋域之封悉皆除治享祀以時唯德陵安陵邈在孔州道里遼遠奉祀之誠有所未盡每思修治以時享祀因循至今良用歉然卿學通古今才兼文武一代典章由卿制作今命卿爲東北面都宣撫巡察使卿其往也凡所以奉安園陵者悉從盛典舉行無遺繕完城堡以安

居民量置站戶以便往來區畫州郡之境以杜紛爭整齊軍民之號以定等級自端州盡孔州之境皆隸察理使治內其戶口額數軍官材品具悉以聞所有便民條畫從宜舉行於戲奉先思孝人子之誠守命惟勤人臣之職往哉惟敬壬寅以參贊門下府事李之蘭爲都兵馬使爲其副行

〔參〕庚子—〔癸卯〕○花山君權近上書曰略中東北面王業所基根本之地也上國欲於鐵嶺立衛之時臣撰表文欽奉回咨曰鐵嶺之故王國有辭由是國家更無東北之憂爲我臣僕以翊興運事雖在於前朝利實關於今日者也略下

太祖實錄 卷十三

七年正月

○己酉朔上具冕服率羣臣賀帝正坐勤政殿受百官朝賀諸道軍民官各進方物吾都里吾郎哈萬戶亦獻方物禮畢宴羣臣日本國使者及壹歧對馬霸家臺使人吾都里吾郎哈同赴宴極歡而罷

○庚戌賜吾都里吾郎哈衣

〔參〕○乙卯〔中略〕崔永沚爲西北面都巡問察理使〔下略〕

癸亥○賜吾都里於何里等四人衣各一襲

壬申〔甲戌〕○以宣略將軍童多老爲吾都里上千戶給中樞院牒

七年二月

〔參〕庚辰○東北面都宣撫巡察使鄭道傳分定州府郡縣之名遣從事崔兢

以聞安邊以北青州以南稱永興道端州以北孔州以南稱吉州道令東北面都巡問察理使統治之又置端州以北州府郡縣及各站路官吏吉州道察理使一令史十二兩班子弟知印六兩班子弟使令百姓二十吉州牧官使一令史十二使令二十五日守兩班十五州司長史二副長史四五品以下司吏六兩班徒隸十五百姓左右翼各千戶一百戶六統主十二端州知事一令史十使令二十日守兩班十郡司長史二副長史三司吏四徒隸十左右翼各千戶一百戶四統主八鏡城郡知事一令史六使令十五日守兩班八郡司長史二副長史二司吏二徒隸八左右翼各千戶一百戶四統主八慶源府使一令史以下同端州青州府使一令史以下同端州甲州知事一令史以下同鏡城各站司吏二日守兩班五館夫五急走人五馬夫十五洪原新翼站改新恩站平浦站仍舊名青州多灘台站改五川站所應居台站改居山站端州時里站改施利站波獨只站改基園站仇麻耳站改麻谷站吉州西之委站改臨溟站藥水站仍

舊名明間站改明原站鏡城郡朱外站改朱村站吾老村站改吾村站在城站改龍城站加夫台站改富家站慶源府時反站改時原站翁口站改翁丘站在城站改江陽站豫州原興合爲一郡改號預原知事一咸州任內洪獻改洪原縣令一

〔參〕癸巳—〔乙未〕○東北面都宣撫使鄭道傳城慶源府

七年三月

〔參〕戊午—〔庚申〕○命都評議使司曰安陵德陵在慶源府遣使往來驛路受弊四時之祭宜令青海道察理使攝行

〔參〕丁卯○東北面都宣撫巡察使鄭道傳都兵馬使李之蘭等復命各賜鞍馬仍賜宴上謂道傳曰卿之功浮于尹瓘矣瓘只是築九城樹碑而已卿區畫州郡站路以至官吏名分莫不定制令朔方道無異諸道功不細矣

略下

七年四月

〔參〕己亥○命都堂輸端州以北州郡軍餼一千石于慶源府又泊兵船十艘于豆滿江置新翼萬戶府于慶源府之界

太祖實錄 卷十四

七年五月

○丙寅復業人李伯顏夫介盲人金孝道來自遼東賜衣糧

七年閏五月

庚寅○東北面都巡問使報陸青弓知介來欲寇邊上卽下旨令水軍萬戶全承桂領永興青海道兵船往征之又令安撫使金承暉領陸地軍官往擊之

七年六月

○甲寅遼東被虜人金松逃來告曰蒙古軍向遼東燕府王率師攻擊敗之遼王領兵將行予亦充軍而行中路逃來賜衣食安業

七年八月

〔參〕己巳—〔壬申〕○〔鄭〕道傳字宗之號三峯〔中〕丁丑宣撫東北面定州郡〔冬力〕名築

孔州城戊寅春還〔略〕下

太祖實錄 卷十五

七年十月

○乙巳孔俯等還自遼東俯等至遼東聞皇帝升遐太孫卽位大赦乃還

七年十二月

〔參〕○甲子太祖高皇帝訃音至義州萬戶李龜鐵傳奉禮部咨文及明年曆日以進曰朝廷使臣陳綱陳禮等到鴨綠江西萬戶至使臣旣授之卽欲回去萬戶固請越江信宿而還略下

定宗恭靖王實錄

定宗實錄 卷一

元年正月

庚辰—(庚寅)○兀狄哈二人及女真二人來

○改計稟使嚮長壽爲進香使同金士衡河崙入朝初長壽至婆娑鋪遼東都司以非三年一聘之期不納長壽還至義州移書左政丞趙浚曰請每年朝聘事宜更奏聞否則於陳慰進香使差遣於是啓爲進香使

○吾都里萬戶童所老來

庚寅—(辛丑)○遣吉州都鎮撫辛奮賜酒于愁州兀良哈萬戶劉八八禾吾晉會吾都里萬戶童猛哥帖木兒多甫水兀狄哈等

元年三月

定宗元年 己卯(建文元年)

〔壬申朔〕〔乙亥〕○軍一人自遼東逃來本國人也屬東寧衛以遼東役煩逃還言燕王欲祭太祖高皇帝率師如京新皇帝許令單騎入城燕王乃還興師以盡逐君側之惡爲名

元年五月

乙酉〔己丑〕○放吾郎哈所獻狼于野上謂同知經筵事李詹曰此獸遠人所獻畜之宮其所食月費六十餘雞豈可以有物養無用之獸乎放于無入之地以遂其性詹對曰昔漢文帝却千里馬況無益之野獸乎殿下之心與之符合請無忘此心擴而充之一國臣民之福也

定宗實錄 卷二

元年八月

庚子○左政丞趙浚上箋乞辭不允箋略曰略中臣與道傳南閭同功一體初無纖毫之隔自道傳得罪天子與南閭結好謀攻遼東規免一己之禍臣當是時病臥於家太上遣二人枉咨於臣臣力疾作氣上謁天門奮發愚衷得回天意邪謀遂沮由是二人與臣猜隙勢不相容路人所知略下

元年十月

乙卯〔乙丑〕○判三司事偃長壽卒諱長壽字天民其先回鶻高昌人至正己亥父伯遼遜挈家避地于我國略中戊寅秋上卽位赴京奏聞行至甜水站會帝崩蒙遼東都司阻當沿途停留稟奉朝旨仍充

進香使赴京建文元年六月奏奉聖旨准請回還略下

定宗實錄 卷四

二年五月

辛巳一癸巳○御經筵略中同知經筵事全伯英曰今燕王舉兵而中國亂矣設有定遼衛求降於我則許之否乎上曰此正所深慮也然不若不受之為愈也知經筵事權近曰略中受定遼之降有大不可者若燕王定亂而有天下則必問罪於我矣其時何以對之上言甚合於義上曰卿言是也

○兀良哈殺慶源萬戶李清

二年六月

乙未一己酉○司憲府上言請張思吉思靖等罪不允疏曰略中率軍馬越江畋獵累日留宿因此往來人命溺死其罪四也略下

定宗實錄 卷五

二年九月

己巳(丁丑)○送還中國士女二十餘名于遼東士女嘗爲倭所虜者也

丁丑○定遼衛人十二名逃來人乃言王室大亂燕王乘勝長驅

太宗恭定大王實錄

太宗實錄 卷一

元年二月

己未○遣通事梅原渚押先運馬五百匹如遼東判三軍趙英茂摠制柳龍生爲官馬色提調全羅慶尙所貢馬皆善以所交人駑馬換之

元年五月

戊戌○有船一艘來泊全羅道長沙縣船中人六十餘自言以帝命運糧于遼東因風到此命給糧厚慰以送之

太宗實錄 卷二

元年八月

〔參〕戊辰○以司尹孔俯爲書狀官初俯點進獻馬於義州豐海道人以驚馬欲易良馬俯利其餘價許之帝與燕王戰不勝戰士奔北步先騎後以所獻馬驚下故也帝命指揮擇驚下者六十餘匹而還之皆俯所換也憲司囚俯伴人遣吏守俯家問其罪上欲脫俯罪充書狀官而遣之

〔參〕癸酉—乙亥○遣兵曹典書高居正城慶源府

〔參〕○己卯上遣醫問使臣陸顥疾于中路初顥奉使到國密與妓委生爲奉使復來之約及還帝問舊聞朝鮮之事元也以女樂惑使臣今亦有乎對曰無之今朝鮮禮樂與中朝無異因奏朝鮮產馬之邦也若以綺絹市良馬可備戎事帝大悅遣太僕寺左少卿祝孟獻與顥賈綺絹至渤海遇章

謹端木禮謹詰顥曰朝鮮有女樂汝以無對何也予將上奏孟獻目謹曰使臣之賢否外國論之汝守清節何責顥爲顥懼遂得心疾

元年九月

〔參〕○丁亥朔朝廷使臣太僕寺少卿祝孟獻禮部主事陸顥奉勅書來孟獻等率獸醫王明周繼至設山棚結綵備儺禮百戲上以冕服率羣臣迎于西郊至議政府宣勅皇帝手詔曰勅朝鮮國王前使者還王以中國軍興乏馬特貢三千匹茲復遣人貢良馬名藥織布諸物禮意恭順朕甚嘉焉

〔略下〕

丁亥朔○兵部咨曰建文三年六月十二日大僕官同文武百官早朝於奉天門欽奉聖旨朝鮮國多產馬匹前日國王好意思進馬三千匹已命遼東都司給與官軍騎坐了如今再用些堪戰的馬差人運著段匹布綃藥材就教太僕寺少卿祝孟獻禮部主事陸顥去易

換好馬一萬匹恁兵部行文書教國王管事的官每知道於官民有馬之家照依那裏時價易換將來不要虧著他欽此本部今將聖旨事意備云前去理合移咨知會欽遵施行易馬一萬匹運去段匹等物各色苧絲生絹緜布藥材木香乳香丁香黃蓮丹砂澹礬川芎縮砂肉豆蔻良姜白花蛇

〔參〕○辛丑朝廷國子監生宋鎬相安王威力劉敬等四人賣馬價來文綺絹緜布九萬餘匹及藥材用車一百五十兩牛馬三百馱入京略下

元年十月

〔參〕○戊午上如大平館宴使臣及監生董暹暹賣馬價而來略下

〔參〕戊午○議政府定易換馬價大馬上等價常五升布五百匹中等價四百五十四下等價四百匹中馬上等價三百匹中等價二百五十四下等價二百匹朝廷馬價段子上品一匹准常五升布九十四匹中品八十四下品

302786

七十四匹官絹一匹准常五升布三十四匹中絹二十五匹緜布一匹准二十匹且以諸般藥材并給之上命判承樞府事趙英茂擇進獻馬匹上自諸君下至九品隨品出馬送大平館監生等書其毛色獸醫二人選馬四尺以上為中馬三尺以下不納

○庚申上如大平館餞監生王咸以咸領初運馬一千匹還朝也

○辛未監生劉敬押二運馬一千匹還略中初祝孟獻謂接伴使曰觀此國之勢倉卒難備萬匹吾當聞于帝乃白于上上荅曰我國本非多產馬匹且三面濱海倭寇來往必使騎兵守禦故難備萬匹僅可辦五千匹耳命有司具此意為咨以授孟獻

〔參〕辛未○始給馬價上等馬段子則四匹絹則十四匹中等馬絹則八匹緜布則十二匹以白花蛇木香乳香等諸般藥材并給之

〔參〕丙子○慶源城告成

太宗元年 辛巳建文三年

〔參〕○庚辰上如大平館宴使臣及監生以監生宋鎬將還也〔下略〕

癸未○監生宋鎬押三運馬一千匠還〔四力〕

元年十一月

〔參〕○庚寅祝孟獻以其馬易朝廷所買良馬獸醫王明以上所賜馬自擇所買馬而易之愧孟獻之知誘孟獻曰君之馬有鼻病可於所買馬中易之孟獻然之明以全羅道良馬易之

乙未〔庚子〕○監生相安押四運馬一千匹還〔下略〕

〔參〕戊申○監生郭瑄柳榮等賣馬價紗羅綾段來上如大平館設慰宴

元年十二月

〔參〕癸亥〔乙丑〕○孟獻曰皇帝勅送馬價多而換馬甚少吾將何以爲對乎上聞之命知申事朴錫命言於孟獻曰易馬少我國更備二百匹以獻請天使小留待之孟獻曰國王聞吾之言而有是語如此則是乞馬而歸也

吾何敢爾耶

〔參〕乙丑○判承樞府事趙英茂升殿啓事上問曰朝廷易換馬分運入送時不能善養以致困死故已令西北面留養其不能行者其數幾匹乎英茂以提調不能對

○戊辰上宴祝孟獻等于敬德宮孟獻等就闕告還上設宴慰之領司平河崙左政丞金士衡右政丞李茂判承樞府事趙英茂等啓曰易換馬加獻四百匹則可矣其四百匹隨後入送爲便上曰可以此意言於孟獻孟獻曰然則今來馬價惟六千四百八十四匹之價矣吾等歸遼東奏聞加送馬價矣孟獻促行上請留一日不聽上召官馬色官員問馬價之數對曰可買七千匹退而計之乃復曰唯六千四百八十四匹價也上怒其失於算計亦不加罪

戊辰〔庚午〕○遼東指揮河大人致書孟獻曰君之易換馬皆年老

瘦弱不用何故如此孟獻見而怒以其書轉呈于上上披閱令知申事朴錫命回答曰換馬事我朝盡心力而爲之天使所知也我朝擇良馬次其等第天使許之然後作運入送若本固老弱則天使豈肯入送乎予因使臣往來得聞之草枯時遼東館夫麤切蘆草飼之遼東人飢餓偷食馬料故肥馬日瘦能至帝都者三分之二我朝盡力之心安在孟獻曰吾亦聞之矣吾等還京當在明日

○庚午大僕寺少卿祝孟獻禮部主事陸顒等還上率百官餞于西郊孟獻等之將還也以黑麻布白紵布爲驢太上王及上王亦以黑麻白紵布贈之孟獻曰衣服皆國王所賜恩已厚矣又何如此乎遼東人知之則謂我受贈不公於易馬則累及國王矣顒亦不受監生郭瑄柳榮董暹曰或受或不受則不可也亦不受孟獻謂獸醫王明周繼等曰汝輩受之可也二人乃受

〔參〕庚午○下尹坤李玄安允時等于巡軍獄初坤等在朝廷論馬價之數及孟獻以價多馬少爲言且陸顒曰李稷右使在朝廷時論馬價曰上等馬段子四匹中等馬絹十四匹今馬價何其高也李玄曰右使固無此言顒曰入鴻臚寺以此數書之其書在矣上聞之命摠制李叔蕃知申事朴錫命大司憲李至左司諫陳義貴刑曹典書申浩雜治之坤玄皆不服允時曰稷與坤在鴻臚寺論馬價曰上等馬段子四匹絹則十匹使臣書之坤曰然臣等忘之矣

〔參〕乙亥○遣摠制朴經如京師奏易換馬數也

太宗實錄 卷三

二年正月

甲申朔〔丙戌〕○兀良哈五人獻毛皮箭羽倭九人亦與賀禮

丁亥○兀良哈八人來獻土物

〔參〕丁未○朝廷使臣兵部主事端木智率監生栗堅獸醫周繼等至〔中〕初智之來也路遇祝孟獻孟獻與智言曰朝鮮之馬無可用者君往見之智曰如此則君在朝鮮當奏聞取旨而後還何爲其速來耶乃置其所賣馬價於遼東奪陸顛馬而來使人言於上曰前使陸顛不集其事受馬而還故我奪之而來上命司僕官受之初陸顛同祝孟獻復來得心疾憂懼不食朝廷知之故徵顛還使智代之

〔參〕○己酉上如太平館告使臣以詣逍遙山見太上王之意也智曰予欲以

馬價先至之數易換以歸上曰不可予旣與祝公約矣今變之是失信也上嘗與孟獻約曰待馬價盡來畢易換然後以次作運入送故云然使臣謂韓尙敬曰王與諸相共議以先來馬價姑易換以歸可矣日日置酒禮則盛矣所賣馬價恐爲奸盜所竊宜與王善圖之乃作書曰端木孝思白列位陪相公孝思竊聞欽差祝少卿等到此爲互市馬匹事比先李通事等在部供報朝鮮地方多產馬匹段子四匹可得上馬一匹及至此通事隱匿前言却與衆官會議時直價錢段子六匹可得上馬一匹二運段物通得馬五千四百又第三運未到祝少卿驚見所買馬匹遂白于國王王怒徙通事海濱復欲枚徵賣馬之家多餘段匹買馬倍償甚失事上治下之意經云大車無輓小車無軌其何以行之哉豈可捨義喻利以失信於人又聞欲遣官赴京捧虛文償馬一千一百匹奏請并以李通事等上侮朝廷下欺國家之罪達之于上上必命法司逮繫通事赴京以明不臣之罪彼時恐恩信兩失之矣國王聰明過人必能熟計不至於此孝思愚昧

常以至誠自許冀諸公勿以我爲疑幸甚

二年二月

○乙卯朝廷遣太僕寺少卿孫奉賈兵部咨至遼東奉見孟獻曰君何已事不以奏聞而來乎孟獻轉送咨文因言吾亦隨去孟獻以爲先來馬價易換未准今依價數易之端木智以爲先來馬價已與民貿易今更除取其價未便當取在遼東三運馬價貿易上命聚時散宰樞于紫門議之以加易三千匹爲定乃遣知申事朴錫命言於智智大喜智厭孟獻見錫命曰孟獻不必來也吾能使之不來上聞之曰智欲自以爲功矣智與孟獻不和必相構於帝然則我國勤於易換而終無功矣莫若孟獻復來遣錫命言於智智曰孟獻復來亦可也智遣監生栗堅取馬價於遼東上遣錫命言於智曰予還自逍遙適有眼疾未卽進見請留監生一日智曰國王來見專以勸酒也吾

等日日盡醉不須國王來勸也朝廷急於易馬莫如速遣監生遼東使之轉聞也智携妓日醉自誇其書曰天下第一筆以印本一冊贈判閣楔眉壽曰書法與王羲之無異也

〔參〕丁巳○命議政府以三運馬價皆易上中等馬毋易中馬下等

丁巳○命置本國人民自遼陽還者於忠清全羅慶尙道西北面敬差官鄭渾報曰本國人民逃入遼陽者近因飢荒征役携其妻子還渡江者絡繹於路若置江邊州郡他日遼陽等處年豐兵息則又誘我人口盜牛馬越江而走必矣乞將此人等移於下三道諸郡以充驛吏官奴甚便非祗斯民之福亦國家之幸也議政府以聞上曰安置於下三道給初糧穀種田地委曲庇護

〔參〕○庚申命各道觀察使善養諸州分授馬匹欲於三運易換馬并送也

戊辰○遼東都司遣還金鐵力等三人初船軍金鐵力派稅金莫惠

等三人被倭擄至中國邊境而逃遼東都司奏奉聖旨就付賀正通事閔德生遣還

○壬申祝孟獻率監生董暹柳榮獸醫王明等還自遼東上率羣臣迎于郊與孟獻並轡至大平館慰宴端木智素惡孟獻稱疾不出以上設宴赴座智在東房孟獻入西房略下

〔參〕○乙亥進馬七十四於大平館孟獻等唯納十五匹餘皆退之上遣錫命言于孟獻曰我小邦本不產馬前日盡數進獻今又奉命盡心竭力備二千餘匹天使初見而退之如此則馬非一二日所辦之物也如之何又曰雖如此說孟獻等必易馬而後歸矣卿毋疑悞悉以予言之錫命與孟獻悉言之孟獻曰易馬雖少及時奏聞使吾等還可也智曰吾腐儒本不知馬之善惡祝公知之矣

壬午一三月甲申朔○監生柳榮押五運馬一千匹還

二年三月

〔參〕丙戌○遣吏曹典書呂稱如京師奏本國地狹馬少難於易換也

○己丑賀聖節使參贊議政府事崔有慶回自京師有慶啓曰燕兵勢強乘勝遠鬪帝兵雖多勢弱戰則必敗又有韃靼兵乘間侵掠燕遼之間中國騷然

○丙申遣判內資寺事庾龜山于義州遼東軍朱景等逃至義州言二月十八日征燕軍馬逃散不知其數侵掠民居故逃還本土乃遣龜山探候力事變

○丁酉分置遼東逃來人等於江原道及東北面初遼東人男女九十名逃來義州又民一百五十戶乘桴越江到泥城云燕軍大興衛領軍楊大人棄城降于燕故畏而逃來上令議政府分置之給糧又移西北面各州安置己卯年以後向國逃來人於下三道各州給糧

〔參〕○辛丑上如大平館中略孟獻與智謂上曰易馬大緩上答以無馬孟獻曰帝謂朝鮮多產馬今言無馬何也上曰天使今親見之若有馬則藏之何處願天使降尺馬尺寸則能易之否則遲矣孟獻以尺寸分馬大中小故以是答之

壬寅○監生栗堅張緝朱規等自遼東賣馬價而來

○癸卯祝孟獻還遼東孟獻言曰孫少卿在遼東見易送馬曰多不中用率皆黠退吾將見孫公說以勿退若不聽則吾還朝親奏矣
丙午○監生董暹押六運馬一千匹而還下略

〔參〕○丁未上至自逍遙山朝廷兵部咨文到其咨文曰本部欽奉聖旨易換馬七千匹今已易來朝鮮不能充一萬匹則不可強易使臣可回來上喜祝孟獻端木智見咨文皆曰可喜

〔參〕○己酉議政府承樞府司平府會議易換馬事僉曰朝廷馬價已來畢易

換爲宜

己酉○中國漫散軍二千餘人到江界

二年四月

○癸丑朔內書舍人李之直左正言田可植上疏論事下其疏于三府擬議疏曰中略一軍政所須莫過於馬今朝廷先以賞賜繼以易馬是啗之以利欲得良馬非天王所以待諸侯之道也殿下以事大之誠不敢違命而使臣民皆得賣買分運進獻禮則然矣然以徧小之土有限之馬填無窮之欲則臣等恐馬盡而力虧矣如有緩急將何以哉中略願除已易馬匹外勿令易換所餘馬價悉還上國其綾羅段子進上服御外一皆禁斷一招亡納叛春秋所貶今遼瀋之民托以飢饉亡命來附此輩雖是本朝之民曩既叛於我今又背於彼其反覆難信可知也且今臣事大國而復納叛有乖事大之義願自今逃

軀來附者卽令捉拿還遣勿許入境略中遂下議政府與司平府承樞府同議乃啓略中停易馬其所餘價還送事初約七千匹六千匹已易送其餘一千若停貿易已易送六千匹反爲無功未有明降還其餘價亦難逃來人還送事三府耆老已會獻議狀內事意皆未允當乙卯○命三府及耆老議泥城兵馬使所報泥城飛駟啓去三月二十九日遼東軍馬五千餘人到江邊言追逃軍而至欲結桴過江何以待之上意謂此必追前日所納本國之民九十餘人者也乃命三府會耆老議之命各司各以所見呈單字于政府日午泥城飛駟報遼東總兵官移必屯口子劄付摠兵官徐見准摠兵官鎮東將軍咨爲軍務事該遼東土人逃叛移咨統兵前來追殺及招撫今親統大軍追至鴨綠必屯口子見得賊人蹤跡已行過江逃往本境若便調兵追勦誠恐官軍往彼四掠玉石不分且欽惟天朝待朝鮮國王禮

意殊深市馬貢獻并皆如約豈以納此逋逃爲念以失大義除權行駐江邊外劄付到日卽將逃去人李和尚金者答里林八失徐李典伊等火速解來施行毋得隱藏以惹兵釁得此乃知其軍馬所自來又知前日所納九十餘人非逃軍也上令應奉司爲必屯口子把截官呈狀送于徐摠兵曰無有逃軍之來我國者雖有縱跡近處山谷深遠如此逃人隱藏甚易未知隱於何谷也若知來隱之處則上告本朝執而送之矣

○西北面都巡問使李彬飛報盧嵩至開州站遇賊而還盧嵩賈謝恩方物馬匹監生柳榮押易換馬二百匹俱至義州時孫少卿爲催督馬匹亦來義州遂與之發向遼東三月二十六日至開州站有劇賊二百餘名突出挾攻盡奪進獻方物及柳榮所押馬匹唯盧嵩所進別馬二十四匹爲牽馬軍所騎以走獨不被奪孫少卿所騎馬中箭

與嵩等皆走匿僅免上使人告於端木智智憂懼終夜不寐

○上與義安大君和判承樞府事趙英茂等議遇賊之事曰致此變者皆由使非其人故也祝少卿事畢既還孫少卿欲求贈賚而乃以馬爲不良柳監生至平壤稱疾而臥淹延日月遂至於此朴錫命曰今中朝之人率皆如此西有燕反北有凶奴(匈奴)間有草賊釋此不憂惟逃軍是追遼東徐摠兵之爲謀亦淺矣上曰如端木智者誠小人也惟酒食是好錫命曰近來使臣類如此中國實無人也上曰唯祝少卿嘗曰以陸儒生幾失天下此卽憂國之士也未幾彬又飛報探賊徒所自乃征燕潰卒其數不過二百餘人孫少卿率百餘騎渡鴨綠江尋蹤見無賊人已還遼東矣於是國人憂疑稍解上使人言於端木智智喜甚

〔參〕○丙辰罷易換馬匹

丁巳○義州千戶咸英彥入見李彬使英彥詣闕且啓英彥自遼東還言路見本國人劉仁伯言東寧衛千戶林八刺失里率三千餘戶而叛河指揮姚千戶等率一千五百餘兵追逐盡爲八刺失里所殺梟首路歧又多殺瀋陽開原兩衛軍馬渡鋪州江曰欲附朝鮮若不許入願爲農事於此地以居上使人告于太上王上召入英彥問曰徐摠兵于今安在對曰臣率八九人渡江欲遇之而竟不得見止見逃軍仁伯等三名問之曰飢饉逃來迷所往耳且言林八刺失里所殺軍人暴屍盈野弓槍甲冑折而散置者不可勝數上曰八刺失里等徒衆幾許英彥曰意其萬餘人也上賜英彥衣還送

○西北面報逃軍四十餘人到江界彼邊曰吾等到鋪州江置妻子無糧故來也下旨于江界節制使追軍未還而逃軍之數倍於所言則不許越江追軍已反而逃軍之數如其所言則許令越江

戊午（辛酉）○以朴蔓爲東北面都巡問使議政府啓東北面我國要衝之地今遼東逃軍多至江界地面願遣將相之有智勇者以鎮之以固邊圉上然之以命蔓賜廐馬甲冑劍而遣之

辛酉○青海君李之蘭卒之蘭東北面青州府人也古名豆蘭帖木兒稟性純厚有武才早從太上王征戰獻捷竟與開國之列太上王待之特厚又與定社佐命之功疾且篤上書曰臣之本土人死於他國則焚其屍還葬其土願殿下使臣從土風又願殿下恐懼修德永保朝鮮上悼甚輟朝三日諡曰襄烈及葬如其請三子和英和美和秀

〔參〕壬戌○使臣祝孟獻來以路梗未至遼東而來謝恩使盧嵩亦還

○戊辰會二品以上耆老於紫門議納逃軍可否傳旨曰林八刺失里等三千餘戶逃來時河指揮姚千戶等領一千五百兵追之八刺

失里等盡殺之瀋陽開原兩衛軍馬來追亦半殺之至江界請入姑留江邊以觀其變歟若不許入糧盡勢窮作亂無疑聚軍防禦農事失時及至冰凍尤爲可慮許令越江分置各處歟於是請留江邊觀變者二十三請令越江分處者十二又令各司獻可否紛紛不一
戊辰○納林八刺失里等領司平府事河崙與左政丞金士衡右政丞李茂判承樞府事趙英茂等啓今不許納飢餓所迫必至爲害雖不爲害皆飢死矣宜納之上從崙議初西北面察理使報遣張千戶載酒越江餉林八刺失里八刺失里喜殺牛與張千戶飲曰定遼衛軍官皆屬燕吾等既反大明不可從燕願鋪州江邊許我爲農不然則分遣各道爲民則當補佐朝鮮乃使其妻行壽酒上遣姜尙仁于江界將林八刺失里等軍分運納之命判閣楔眉壽告孟獻等曰漫散軍多至北邊侵掠我境予欲命將擊之恐是官軍不敢孟獻移關

定遼衛曰朝鮮地面賊人蜂起虜掠邊境朝鮮人欲擊之恐是官軍故不敢領軍速來鴨綠江邊夾擊之便授通事崔雲遣之上教雲曰汝去定遼衛但言漫散軍來屯鋪州等處不知其指向遼東人若欲領兵討之汝言鋪州等處山水深險大軍不可往也

辛未〔癸酉〕○命議政府議遼東指揮張剛請糧事剛率百戶總旗軍人等百餘到今晉同島言欲管歸市馬且曰徐總兵追賊盡誅已得金鞍一部矣徐總兵軍人及吾等絕食已久幸惠糧米

〔參〕癸酉○東北面都巡問使朴蔓詣逍遙山告辭太上王曰東北面之人皆予兄弟也向者巡問使尹師德侵擾甚矣卿宜安撫蔓叩頭謝曰臣當盡心太上王笑之蔓泣而進曰今逃軍多至兩界國家罔知所措皆望殿下還宮殿下何不速還國人皆以殿下爲不慮國事太上王曰然吾將還矣

〔參〕己卯○上如太平館餞監生栗堅張緝等〔略下〕

二年五月

癸未朔○監生栗堅張緝等押七運馬而還三運馬價段子一千五百匹絹一萬三千匹縣布六千五百匹其交易馬數一千六百二十四匹也又以遺在段子九百二十八匹絹五千三百八十四匹縣布三百八匹易馬九百九匹隨後入送

丙戌○林八刺失里崔康等獻兵器甲十一弓二百二十四箭二千六百五十三鐵頭具五十六槍九十八劍六十七角三纛二旗十五弓弦一百八螺鉢一錚一

〔參〕丙戌○流摠制朴經于通津初祝孟獻之還也經奉使偕行路逢端木智不待命而還憲司劾問流之

己丑○西北面敬差官禮賓尹崔關復命啓曰臣至平壤饋林八刺失里等十餘人方其肅拜盡縛而囚之初八刺失里率一萬八千六

百戶逃來

○庚寅命三府會于紫門議還送林八刺失里等可否上曰予非欲與中國抗衡也人自水火中出來求生活其可忍視耶以故既納之矣今以中國之迫而還遣之必殺之無遺是亦置人於死地也錫命曰諸相之欲遣還有乖於大義上曰是亦本國人物義可不還但恐以予為抗衡耳予不欲遣遣一人也爾等與諸相更圖之

乙未○林八刺失里等八人來自平壤詣闕命餉之

○朝廷左軍都督府奉聖旨移咨以逃軍還遣事也

〔參〕○壬寅祝孟獻端木智等還京師上率百官餞于西郊〔下略〕

○壬子分置漫散軍于豐海道男女老幼總八百六十九令各官給糧

二年六月

〔參〕癸丑朔〔乙卯〕○與河崙等議築西北諸州城河崙等啓曰今中國兵興

宜築西北面城李茂曰宜築平壤安州義州泥城江界等五城崙曰若不得以石築之則木柵猶可上曰工省而城成猶愈於無城也金士衡曰三國戰爭之時皆用木柵今中國大亂我國無事宜於此時築之上曰然待秋遣使築之

太宗實錄 卷四

二年八月

己未（甲子）○朝廷左軍都督府咨文至咨曰左軍都督府爲軍務事建文四年五月二十一日兵科抄出遼東都司奏爲因土人逃叛參將徐便已調都指揮胡璟等率領官軍追至龍州江邊擒獲原逃首賊壯士百戶李勇等供自謀叛之後先將家小於樓子山等處藏放節次於海蓋地面擄掠人口槍劫（搶力）馬匹等物殺傷差使人員又令父李典伊等將段子布絹衣服由撒不郎馬頭割筏過江送馬龍州把截萬戶有本官差撥船五隻前來接取家小三百餘口過去訖今照撒不郎馬頭係朝鮮地方龍州萬戶本國人員兼李勇等俱是逃叛人數建文四年五月二十日晚掌府事龍虎將軍柱國駙馬都尉

耿璿等同兵部等官於奉天門欽奉聖旨見擒獲的人就那裏廢了號令龍州萬戶受逃叛人財物放他過江左軍行文書與朝鮮國王知道欽此抄呈到府除外合咨本國依欽奉事理煩將龍州萬戶就便撥落仍行所屬用心根捉逃賊李典伊等得獲差人送與遼東都司取問施行須至咨者

二年九月

〔參〕辛卯（癸巳）○與左政丞金士衡右政丞李茂判承樞府事趙英茂議東西北面量田之事〔中略〕李茂曰諫院之疏慮國家之事也東西北面地接中國今也中國兵興飢饉荐臻及其冰凍恐有擄掠之患故其界人民常懷憂懼今者已遣敬差官審其田之損實又繼以量田之事則民心不安〔中略〕上曰量田收租欲其界面有軍資也如有不虞之變其面之人所資以生何憚之有哉茂曰民之有此計者鮮矣上曰城子已畢乎僉曰泥城江界

則已畢義州則無石之地今猶未畢略下

丁酉○分置遼東逃軍林八刺失里等于諸道八刺失里等家小來京乃分置之慶尙道一千二百九十七忠清道八百五十四左右道四百八十八全羅道一千五百八十五

○戊申通事康邦祐來自遼東至平壤西北面都巡問使飛報邦祐言六月十三日燕王戰勝建文皇帝命焚奉天殿而自縊于殿中后妃宮女四十人自死是月十七日燕王卽皇帝位遣都察院僉都御史俞士吉鴻臚寺少卿汪泰內史溫全楊寧等賈詔書已於今月十六日越江而來力士二人本國宦者三人隨來略下

二年十月

丁丑十一月庚辰朔○太上王宴使臣溫全于澄波渡略中太上王欲率別侍衛以幸東北面略中上聞太上王欲北幸欲出中路迎慰溫

全仍詣太上行在奉餞大提學李穰言於右政丞李茂曰遼東雖一指揮出城五色軍容甚盛今上但率千餘人見使臣於草次如何茂曰然卽詣闕具陳請停駕上從之略下

二年十一月

○甲辰知殷州事宋典逃來典啓曰季天祐敗績臣陷彼軍其都鎮撫任純禮使臣散糧曰軍數六七千人也兀良哈來則足萬數矣臣潛逃而來路見其軍或四十或三十或二十作隊而逃者多矣

二年十二月

壬戌○移文各道推刷自遼東逃來軍人聞朝廷遣使臣推刷逃軍欲及使臣未到之前還送也

己巳○遣判軍資監事辛龍鳳招安吾都里兀良哈等以其不附也壬申乙亥○刑曹典書陳義貴押漫散軍林八刺失里等如遼東

戊寅○朝廷遣使臣推刷漫散軍遇陳義貴于林畔站令義貴還

太宗實錄 卷五

三年正月

○辛卯遼東千戶王得名百戶王迷失帖等奉勅書至上以冕服率羣臣迎于西郊至闕開讀皇帝勅諭東寧衛漫散官員軍民人等太祖皇帝開設東寧衛好生安養你每後來建文苦得你每沒奈何漫散出去如今天下太平了我只遵著太祖皇帝的法度安養你每都回來東寧衛裏來住官仍舊做官軍仍舊做軍民仍舊做民打圍種田做生理聽從所便休要害怕驚疑若一向執迷漫散不來恐久後悔時遲了故勅上使戶曹典書楔眉壽言於得名曰此非諭我國之書且勅諭無開讀之禮使臣曰雖非諭此國之書此國乃漫散軍之所在不可不開讀上曰此乃勅書非詔書也不可以迎詔之禮行之

使臣曰迎勅迎詔初無異也然禮稱人情而已王其折衷行之於是上行四拜不叩頭入便殿釋服出行私禮仍設宴慰之各贈鞍馬得名等乃以不行迎詔禮頗有不懌之意

辛卯○左軍都督府移咨本國曰近於兵科抄到統兵官鎮東將軍具奏朝鮮國差人解送逃軍王和貴等三十六名到於遼東都司問係參萬遼海貳衛軍役畏避征差糾之同鐵嶺衛軍人原係高麗人民高安住等逃往本國建文三年正月十七日將和貴等起解其同逃高安住等一百一十名仍舊在彼又該遼東都司呈報開原備禦壯士察罕帖木等四十五名本年三月二十八日在於羊腸河地面將帶軍器逃往高麗地面潛躲備呈到府建文三年六月十二日本府官將二次奏呈事理於奉天門題奏奉聖旨恁都府便將文書與朝鮮國差來使臣賈回去說與國王知道但是這等逃去的人著他那

裏力衷揆究都拿將出來差人送與遼東都司休要容留他欽此今備開前去合行移咨知會欽遵施行須至咨者一起高安住等一百一十名一起察罕帖木等四十五名

○壬辰上宴使臣于太平館初陳義貴之還也八刺失里著枷到館使臣見之告于上曰八刺失里等帶枷甚苦請命解之賜衣服以寧其心上曰初此人來言曰我等本朝鮮之民今中國兵興飢饉荐至捨本國將何之請入懇至且因飢饉死於江邊者甚衆有國之君不可忍視茲用許入分置諸州賑養其後得聞此人等多殺瀋陽開原追逐之軍乃知此人之罪甚重不可留納先將林八刺失里等以刑曹典書陳義貴管押而去路遇使臣還來此人等既自知其罪且本爲此國之人豈無族親故舊之可依者乎若解枷則不無還逃之變我國其將何以哉得名曰逃人盡推授我上曰初聞逃來者皆我國

人乃許入境後聞有上國人亦來今乃具錄而還何敢隱乎曾遣人於各道招集矣然逃人散在各道四方無關防聞大人來恐有自惑逃散者得名曰其生存者病死者溺死者明白成書以授我上曰請大人將逃人已來者親自推之

壬辰○吾都里來初趙思義兵亂之後吾都里等疑懼隱于山谷不敢出察理使趙溫使人言曰國家已平何不早朝其萬戶欲來朝先遣人

〔參〕○癸巳王得名等至闕謝慰宴上行茶禮得名等入演福寺焚香于佛前次至太上殿太上辭以疾乃還

〔參〕癸巳○王迷失帖贈館伴李文和以破玉帶文和告政府送于尙衣院

〔參〕丙申—〔己亥〕○太上王命內官萬歲榮宴使臣于大平館王得名曰吾於戊辰年來布枋文侍中崔瑩欲殺之殿下舉義止之乃得生還殿下之恩

粉骨難忘今又差人宴慰感謝難言歲榮還以告太上王曰是實戊辰年來布枋文者則其言然矣

○己亥王得名王迷失帖等至闕上行茶禮得名曰請逃軍無遺推刷上曰曾令各道觀察使推刷安有一名遺匿乎得名等拜謝而退己亥○分遣知印于各道督刷逃軍

○庚子使臣分遣林八刺失里等十餘人諭勅旨于逃軍所在各官癸卯○王得名至闕告辭設宴以慰得名告于上曰帝命臣等直歸王城推之然逃軍之散在北方者却至王城而又北還難矣宜盡推刷直送平壤我先歸平壤點送又曰殿下嘗執林八刺失里等先送殿下敬朝廷之意至矣帝豈能知之吾等入歸實以奏聞願殿下推刷逃軍無遺上曰此予意也初聞人將相食憫而收納散置而養之今聞聖天子即位皆令還送願大人善爲聞奏得名拜手而去

乙巳—(丁未)○遣還漫散軍男女總三千六百四十九名

三年二月

〔參〕庚戌○使臣王迷失帖遊靈通寺

〔參〕壬子○命參贊議政府事崔有慶享使臣王迷失帖以王迷失帖射侯于佛恩寺也

○丙辰上贈使臣王迷失帖弓矢翼日王迷失帖詣闕謝上開宴曰
〔略中〕迷失帖對曰殿下既活漫散軍於垂死之際又先聖旨而遣還殿下之澤豈特一國臣民而已哉上曰是聖天子德威所及天使歸功於寡躬且感且愧迷失帖曰予以遼東一武夫侍殿下而與宴以奉勅諭而來也是乃聖天子之德也〔略下〕

○丁卯取漫散軍所買馬王迷失帖言今天下已一家何以取漫散軍之馬乎館伴對曰天下一家何以推漫散軍乎迷失帖乃笑李茂

以啓上哂之曰逃軍何必枚舉而與之乎宜以錄名者與之

○辛未兀良哈六人告還賜緜布紬布有差

〔參〕○癸酉宴王迷失帖子無逸殿

三年三月

〔參〕乙酉—(丁亥)○使臣王得名回自平壤上詣大平館宴慰遂詣太上殿問安而還

〔參〕○庚寅王得名王迷失帖至闕告辭次詣太上殿太上王行茶禮上餞于迎賓館議政府餞于西普通

己亥—(甲辰)○遣參知議政府事黃居正于京師進解送漫散軍人奏本也奏本曰洪武三十五年月日不等據議政府狀啓備東西北面沿江把截軍民官等呈報節次擒獲到漫散逃來軍民并家小等於各州郡縣收禁聽候呈乞照驗得此狀啓施行據此於洪武三十

五年十二月二十一日除家小等候春和另行解送外先將見獲逃來頭目林泉等二十九名行枷杻手責差戶曹典書陳義貴管押解赴遼東都司去後回據陳義貴狀啓承差管押逃來頭目林泉等依上解送間永樂元年正月初三日行到宣州地面林畔站北迎見欽差官等省會義貴各將押去頭目林泉等二十九名仍領回還得此至本年正月二十三日欽此千戶王得名等官欽奉勅諭東寧衛漫散官員軍民人等聖旨到來開讀欽此行據議政府狀啓據兵房錄事金臺賢呈抄奉欽差官案驗就行移本國各道府州郡縣取發到漫散逃來軍民并家屬等交付欽差官起解前去狀啓施行據此今將上項起解漫散逃來軍民并家小摠數開具奏本漫散軍民摠計一萬三千六百四十一名內見解男女家小共一萬九百二十名在逃二千二百二十五名病故四百九十六名

三年四月

〔參〕○戊申賀登極使書狀官趙末生還啓曰帝命左通政趙居任賈誥命都指揮高得賈印章來已至義州矣〔下略〕

〔參〕○甲寅都指揮高得通政司左通政趙居任及宦官太監黃儼曹天寶本朝宦者朱允端韓帖木兒等賈誥命印章勅書至設山棚結彩備難禮〔下略〕

甲寅〔丙辰〕○使臣黃儼等賈來宣諭聖旨內永樂元年二月初八日奉天門早朝宣諭聖旨建文手裏多有逃散的人也多有逃去別處的有些走在你那裏你對他每說知道回去對國王說一介介都送將來〔下略〕

〔參〕甲寅〔丙辰〕○禮部爲給賜事欽差內官太監黃儼等同正副使都指揮使高得等賈奉誥命金印并永樂元年大統曆前去朝鮮國外擬合移咨本國知會〔下略〕

甲寅〔丙辰〕○兵部爲易換馬匹事該照先差太僕寺少卿祝孟獻

等將運段匹等物前往朝鮮國易換馬一萬匹除已買到馬匹外有本國已收過段匹等物未曾買馬二千一百九十三匹今朝鮮國見差使臣赴京進貢回還合就移咨本國文書到日即請買完前項馬匹就送遼東都司交割具買完馬匹毛色齒歲回報須至咨者

〔參〕○戊午黃儼曹天寶高得等觀獵于南郊〔下略〕

〔參〕癸亥—乙丑○黃儼曹天寶高得等將遊金剛山〔下略〕

丁卯—庚午○囚巡衛府提控金理恭初以漫散軍男女六十口分與朝臣金理恭得名宋哲者善遇之理恭之妻曰給衣食終奚用乃惡之哲潛見使臣言其故居任言於迎接都監曰殿下既令無遺發送何其若是乎遂使告于上上曰天使王得名中路使人謂予曰若有遺漏者隨後盡抄送京中五部及外方州縣更令推刷居任曰殿下之言然矣日月之照猶有未及處殿下焉得盡知之哉

〔參〕庚午○與趙英茂議朝廷易換馬事使朴錫命傳旨政府曰帝恩甚重易

換馬事雖未能即辦七八月間盡數入送

辛未○通事張弘壽率漫散軍男女六十名赴遼東

〔參〕壬申○高得謂通事曹士德曰趙通政不受之物則分給上副天使可也士德曰過金郊而後知通政果不受也高得又言皇帝使吾等欲其得物而用之也雖多惠亦不拒士德曰帝欲得物而用之通政何不受高得曰通政儒者必不受其不受之物贈我等可也

三年五月

〔參〕○戊寅太上王享使臣黃儼曹天寶高得等儼等至太上殿〔下略〕

〔參〕己卯○趙居仁高得黃儼曹天寶等還上餞于迎賓館〔下略〕

三年六月

己酉○兵曹典書偃眉壽押易換馬如京師二千五百四十八匹也○辛未三府會議女真事皇帝勅諭女真吾都里兀良哈兀狄哈等招撫之使獻貢女真等本屬于我故三府會議其勅諭用女真書字不可解使女真說其意譯之而議

太宗實錄 卷六

三年七月

〔參〕庚子○命築東北面鏡城甲州等城

三年八月

○癸酉遣左軍都摠制趙狷如京師賀追崇高皇帝高皇后也上與朴錫命言如有與狷問逃軍事者狷宜仔細以對錫命曰臣已謂狷曰還渡義州江而逃者不知所歸不越江者雖在境內衣服言語無異難以辨矣且山川險阻莫知其隱處若冬寒雪深依于人家則不難得也殿下每令州府郡縣搜遣無遺初漫散軍屯于國境糧盡相殺而食死者半矣上國之民死於國境不可坐視而不恤故納而養之聞今皇帝即位先抄魁首等以刑曹典書陳義貴押而遣之義貴

路逢王得名得名使義貴還若欲隱匿則其押送豈在王得名出來之前乎

三年九月

○壬寅遣典醫少監張有信押馬二十八匹赴遼東以都司嘗退馬二十八匹故補其數也

三年十月

〔參〕○己酉鏡城城告成遣大護軍李愉賜醢于都巡問使及察理使仍賜愉

毛冠襦衣

壬戌○遼東都司咨文至逃軍林荅刺徐林同等推刷還送事也

甲子○〔楔〕眉壽賈兵部咨來咨曰洪武三十四年六月內差大僕寺少卿祝孟獻等官將紵絲布絹等物前往朝鮮國易換馬一萬匹除先已買到馬匹外有本國存留未買馬紵絲布絹等物該買馬二千

一百九十三匹已經具奏移咨本國買完送付遼東都司交割給軍騎操去後今准本國咨開買到雜色馬二千一百四十一匹分作二運差官管送遼東都司交割了當造冊移咨到部除已買到遼東馬匹欽依給軍騎操外查得元存留馬價買馬二千一百九十三匹今二次止買到馬二千一百四十一匹比少買馬五十二匹審據差陪臣楔眉壽供稱元存留物貨數內紵絲九百二十八匹原計每馬一匹紵絲三匹該馬三百九匹今易換到二百五十五匹內上馬一百六十一匹每馬一匹用過紵絲四匹以此比元額小馬五十四匹外餘剩紵絲絹布又轉買中馬二匹實小馬五十二匹據供緣來文內不曾聲說前項緣由難以准信合令本官回還仍行本國照數買完就解遼東都司交割發軍騎操係于易換馬匹永樂元年八月二十六日早本部官具本於奉天門奏奉聖旨這小的馬免了欽此除欽

遵外係于恩免事理合咨本國知會

三年十一月

乙亥朔○向化人童甫化來獻鷹

庚辰○遼東都司還遣逃奴原萬等五口原萬等義州奴也并馬四匹付通事金龍以還

壬午○召左政丞河崙入見崙嘗告病起而詣闕上與論漢武帝宣帝得失言及大明皇帝曰夙興夜寐古昔帝王之道四更而起中夜而寐何所法乎又論兀狄哈兀良哈吾都里等事而曰鏡城慶源不可無城

〔參〕○戊戌上出東郊宴大監黃儼贈鞍馬儼自檜巖還也上語儼曰我國所產馬本小恨不得大馬獻于帝庭今日幸親見寡人所騎之馬願奏予意

○辛丑遣司譯院副使張有信押漫散軍赴遼東凡二百三十名

太宗實錄 卷七

四年三月

戊申（辛亥）○吾道里童猛哥帖木兒等三人來朝

甲寅（丙辰）（略上）是日初置元子侍直用功臣子弟又以吾都里猛

哥帖木兒爲上護軍崔也吾乃大護軍馬月者童於何朱童於何可

各護軍張權子司直無難達魯花赤多末且司直張于見帖木兒副

司直馬自和司正（略下）

己未（壬戌）○賜童猛哥帖木兒段衣一稱釵花銀帶一腰及笠靴

命內臣饋之其從者十餘人賜布帛有差

壬戌（戊辰）○童猛哥帖木兒辭還留其弟及養子與妻弟侍衛上

賜物有差又賜崔也吾乃紬布縣布各一匹

戊辰○遣吏曹典書金漢老賈宮醞迎王可仁于平壤

四年四月

○癸酉賜兀良哈萬戶波乙所及百戶衣布萬戶袂衣笠靴各一縣布黑麻布白苧布各一匹百戶三人各黑麻布一匹白苧布一匹通事黑麻布一匹遣上護軍金廷雋護軍趙加勿等于東北面諭以使臣應對事宜以王可仁將至也波乙所卽把兒遜也

○甲戌遼東千戶王可仁奉勅諭至上率百官迎于西郊偕使臣至大平館擧百官拜勅書叩頭與使臣行私禮設宴勅云勅諭參散秃魯兀等處女真地面官民人等知道今朕卽大位天下大平四海內外皆同一家恐爾等不知不相統屬強凌弱衆暴寡何有寧息之時今聽朕言給與印信自相統屬打圍牧放各安生業經商買賣從便往來共享大平之福今招諭參散秃魯兀等一十一處溪關萬戶甯

馬哈參散千戶李亦里不花禿魯兀千戶修參哈修阿蘆洪肯千戶
王兀難哈蘭千戶朱躡失馬大伸千戶高難都夫失里千戶金火失
帖木海童千戶董貴洞阿沙千戶朱引忽幹合千戶劉薛列阿都歌
千戶崔咬納崔完者李亦里不花即李和英
崔咬納即崔也吾乃

甲戌○可仁本我朝東北面向化人爲太上潛邸時麾下賴太上王
薦拔官至樞密高皇帝時召還改名脩至是已十五年妻子皆無恙

〔參〕○乙亥王可仁詣闕行私禮次詣太上殿又詣上王殿

〔參〕○丙子上宴王可仁于清和亭

己卯○王可仁奉勅書向女真地面命議政府餞于東郊以金承暉
爲接伴使以送之

○戊子朝廷使臣掌印司卿韓帖木兒鴻臚寺序班（鄂九）鄔修行人李榮
等來鄔修等賈禮部咨文至其一爲農政事永樂二年二月二十二

日本部尙書李至剛同工部尙書黃福等官早朝於奉天門欽奉聖
旨近因建文不遵祖訓擅起兵端軍民多被擾害如今天下大平軍
民各安生業但遼東少些牛用朝鮮國與遼東接境多產牛隻恁禮
部便差人去說與朝鮮國王知道著他選堪用的耕牛一萬隻送付
遼東都司每一頭絹一匹布四匹著二部運去遼東與他就著遼東
都司於鎮遼千戶所立市若（那九）那裏人要將物貨來做買賣的聽從其
便欽此除欽遵外今將聖旨事意備云移咨本國知會（下略）

〔參〕己丑○置進獻色掌牛隻易換事令中外時散各品隨品納牛有自願納
牛者聽且令各道觀察使抄火者

〔參〕辛卯○遣前判事金觀道送宮醞于王可仁

丁酉○命領春秋館事河崙知春秋館事權近開史庫考前朝睿宗
實錄睿宗朝侍中尹瓘擊東女真立碑于境上帝遣王可仁于女真

欲設建州衛故欲據此對之也

戊戌○遣大護軍梅原渚押初運牛一千隻赴遼東
四年五月

乙巳丁未○王可仁回自東北面女真人不應勅旨者甚多

○遣知司譯院事張洪壽押二運牛一千隻赴遼東

〔參〕丁未己酉○王可仁又詣闕上御清和亭接見

〔參〕○上宴王可仁于古大平館駕將出河崙入告必先見韓帖木兒而後適

王可仁所館上如大平館謂韓帖木兒等曰欲慰王千戶之行行茶禮乃

至古大平館設宴

辛亥○遣奉常令楔耐押三運牛一千隻赴遼東

丙辰○遣司譯院判官吳義押四運牛一千隻赴遼東

〔參〕○戊午上宴王可仁于清和亭

〔參〕○賜王可仁妻米豆并五十石子致笠衣靴

己未○王可仁還京師上餞于西郊

○遣計稟使藝文館提學金瞻如京師瞻與可仁偕行奏本云照得
本國東北地方自公嶮鎮歷孔州吉州端州英州雄州咸州等州俱
係本國之地至遼乾統七年東女直作亂奪據咸州迤北之地高麗
睿王王俛告遼請討遣兵克復及至元初戊午年間蒙古散吉普只
等官收付女直之時本國叛民趙暉卓青等以其地迎降以趙暉爲
摠管卓青爲千戶管轄軍民由是女直人民雜處其間各以方言名
其所居吉州稱海陽端州稱禿魯兀英州稱三散雄州稱洪肯咸州
稱哈蘭至至正十六年間恭愍王王顥申達元朝並行革罷仍以公
嶮鎮迤南還屬本國委定官吏管治聖朝洪武二十一年二月承准
戶部咨該侍郎楊靖等官欽奉太祖高皇帝聖旨節該鐵嶺迤北迤

東迤西原屬開原所管軍民仍屬遼東所管欽此本國即將上項事因差陪臣密直提學朴宜中賈擎表文前赴朝廷控訴乞將公嶮鎮迤北還屬遼東公嶮鎮迤南至鐵嶺還屬本國至當年六月十二日朴宜中回自京師承准禮部咨該本部尙書李原明等官於當年四月十八日欽奉聖旨節該鐵嶺之故王國有辭欽此仍舊委定官吏管治今奉欽差東寧衛千戶王脩賈來勅諭內招諭參散秃魯兀等處女直地面官民人等欽此切詳參散千戶李亦里不花等一十處人員雖係女直人民來居本國地面年代已久累經胡人納哈出等兵及倭寇侵掠凋瘁殆盡其遺種存者無幾且與本國人民交相婚嫁生長子孫以供賦役又臣祖上曾居東北地面玄祖先臣安社墳墓見在孔州高祖先臣行里祖先臣子春墳墓皆在咸州切念小邦遭遇聖朝以來累蒙高皇帝詔旨不分化外一視同仁又欽准聖朝

戶律內一欵其在洪武七年十月以前流移他郡曾經附籍當差者勿論欽此小邦既在同仁之內公嶮鎮迤南又蒙高皇帝王國有辭之旨所據女直遺種人民乞令本國管轄如舊一國幸甚爲此今差陪臣藝文館提學金瞻賈擎奏本及地形圖本赴京奏達
辛酉○遣司譯院副使康邦祐押五運牛一千隻赴遼東
丙寅○遣司譯院判官林密押六運牛一千隻赴遼東

四年六月

○庚午朔遣副司直唐夢龍押七運牛一千隻赴遼東
乙亥○遣知司譯院事俞巨海押八運牛一千隻赴遼東

〔參〕○己卯朝廷使臣內史楊進保給事中敖惟善奉詔書至迎詔如儀先來使臣（鄂力）鄔修李榮等拜詔於殿階上而後開讀（下略）

己卯○遼東千戶三萬衛千戶等賈勅諭及賞賜與楊內史偕來隨

後而入蓋以向建州衛也命各司一員迎于郊館于古大平館以吏曹典書金漢老爲館伴設宴

庚辰○遣司宰少監任君禮押九運牛一千隻赴遼東

〔參〕○辛巳上宴遼東千戶等于無逸殿

甲申○遼東千戶等至闕告辭以向建州衛也

○乙酉遣司譯院判官姜庾卿押十運牛一千隻赴遼東

辛卯○使臣楊進保鄆惟善鄆鄔修李榮還京師上出餞于迎賓館遣判軍器監事郭海龍賈朝廷易換牛一萬隻數目及十運管押人姓名奏本隨使臣赴京

太宗實錄 卷八

四年七月

癸丑○以上護軍朴齡爲東北面宣慰使議政府啓遣人于東北面使猛哥帖木兒波乙所等不得生變於使臣上曰其道安撫使盡心教誘使不生變爲上策若不從則威之以法且言曰前者王可仁所布勅書之意非將汝等卷土以歸但使各安生業打圍放牧而已故今使臣之來也我國使汝等敬迎勅書毋生釁隙上不得罪於朝廷下欲使汝等安業耳今汝等不從此意則我國因爾等而得罪於上國乎又不從則以軍馬把直使不得生變令使臣無事回還其遣善言者速通于安撫使齡乃行

四年八月

〔參〕乙亥—〔丁丑〕○〔略上〕咸傅霖東北面都巡問察理使兼兵馬都節制使兼永興府尹

四年九月

丙午○知司譯院事張弘壽押補數牛十八隻赴遼東

○上以內官朱信給事中馬榮宗及觀海衛千戶陳生等事移咨遼東陳生等運糧于山海衛遭風到豐州鎮具其由移咨

癸亥○司譯院判官崔雲押被倭虜掠逃來寧波府民陳阿狗等四名遼東逃軍杜添保等赴遼東

四年十月

己巳朔○計稟使金瞻賈准請勅書回自京師勅書曰勅朝鮮國王李諱省奏言參散千戶李亦里不花等十處人員准請故勅上賜瞻田十五結

丙戌○遣中軍都摠制林整如京師謝十處人民還屬本國也

四年十一月

○甲辰朝廷使臣宦官劉環國子監丞王峻用奉勅書及賞賜來設山棚結綵備儼禮上率百官迎于宣義門外至無逸殿受賜勅書曰勅朝鮮國王李諱王遣使送耕牛一萬已至遼東王之忠誠良可嘉尙使回特賜王綵幣用答慰勲之意王其領之故勅紵絲三十匹熟綾子三十匹彩絹一百匹〔略下〕

四年十二月

○庚午遼東摠旗張孛羅小旗王羅哈等至上就見于太平館孛羅等奉帝勅諭授參政於虛出於建州衛者也初帝爲燕王時納於虛出女及卽位除建州衛參政欲使招諭野人賜書慰之
○甲戌張孛羅等至闕辭上使參議李玄及宦官饋之

○壬辰司譯院副使李自瑛押逃軍金加勿等男婦并二十八名赴遼東

太宗實錄 卷九

五年正月

庚子○朝廷使臣千戶高時羅等奉聖旨到吾都里地面吉州安撫使報云使臣高時羅等欲開讀聖旨吾都里萬戶童猛哥帖木兒不迎命曰汎稱吾都里衛不錄萬戶之名何以迎命使臣等詰之曰由朝鮮來使臣二人於吾晉會彼北阿伊兒朱乙臣何大等處會道伊兀良哈三衛好羅乎兀狄哈二衛沙河飲兀狄哈一衛建州衛等處七衛待之又皇帝遣都司率兵衆賣燒酒百瓶及朝鮮馬三十匹來與七衛磨金同盟賜馬三十匹於虛出參政今爾萬戶不順可乎猛哥帖木兒見使臣不爲禮曰不錄吾名緣何屈身其母及管下百姓皆不可曰若不從聖旨帝必勅朝鮮執歸于京師如林八刺失里

無乃不可乎猛哥帖木兒怒叱之遂不順千戶等率伴人十餘前月二十日至吾音會

甲辰○遣大護軍李愉于東北面吾音會諭童猛哥帖木兒以應變事宜賜表裏段衣一領兀良哈萬戶劉波乙所表裏

乙巳(戊申)○賜骨乙看兀狄哈萬戶金豆稱介兼進兀狄哈萬戶童難等衣一襲靴笠銀帶一腰又賜伴人緜布苧布有差

〔參〕壬子○流檢校參贊議政府事趙瑚于平州朝廷之易換牛隻也瑚借人牛而納之及其受價牛主累索之而不與牛主訴于司憲府瑚被劾而受祿故憲府請徵其祿而流之

五年二月

辛未○李愉等回自東北面愉啓曰兀狄哈等不從朝廷使臣之命已丑○遣議政府知印金尙琦于東北面賜童猛哥帖木兒慶源等

處管軍萬戶印信一顆清心元十九蘇合元三十九兀良哈萬戶甫里段衣一萬戶波乙所鍛花銀帶一腰童猛哥帖木兒管下人八十二波乙所管下人二十都賜木縣一百二十四匹白苧布三十四匹女真萬戶仇要老子遼河襲爵萬戶劄付一道賜童猛哥帖木兒所使千戶河乙赤草笠帽珠具木緜袂衣一領光銀帶一腰

五年三月

○丙午朝廷使臣王教化的等三人奉勅書至上迎于西郊至無逸殿受勅皇帝勅諭朝鮮國王東開原毛憐等處地面萬戶猛哥帖木兒能敬恭朕命歸心朝廷今遣千戶王教化的等賫勅勞之道經王之國中可遣一使與之同行故勅

丙午○勅諭萬戶猛哥帖木兒等前者阿哈出來朝言爾聰明識達

天道已遣使賈勅諭爾使者回復言爾能恭敬朕命歸心朝廷朕甚嘉之今再遣千戶王教化的等賜爾綵段表裏爾可親自來朝與爾名分賞賜令爾撫安軍民打圍牧放從便生理其餘頭目人等合與名分者可與同來若有合與名分在彼管事不能來者可明白開寫來奏一體給與名分賞賜故勅

丁未（己酉）○賜吾都里萬戶崔也吾乃酒肉及米一石衣一稱靴笠

己酉○遣上護軍申商于東北面諭童猛哥帖木兒以勿從朝廷使臣之命也上嘗謂左政丞河崙右政丞趙英茂曰使臣之來專以招安童猛哥帖木兒也此人東北面之藩籬也卿等其圖之至是遣商以諭之

○辛亥賜兀良哈上萬戶金大帖木兒光銀帶一腰萬戶柳遼何達

靴各一都萬戶柳歸毛何都鎮撫柳也何千戶柳加乙毛鎮老古百戶好心波通事金哲等木綿直領笠靴各一

○壬子雞城君李來知議政府事金伯英右軍都摠制林整等回自京師賈禮部咨文三道以來其一爲漫散軍餘事近准朝鮮國王咨該體勘得東寧衛原漫散未回軍餘全者遂等陸續緝捕起送外未獲人數隨即判付議政府行移豐海等道并東西北面甲州江界泥城義州等處再於幽僻山谷間窮搜緝捕如遇得獲即便解送外移咨到部查對先該印授監內官王永奏據東寧衛千戶王得名等呈蒙差齎勅諭往朝鮮國招諭到土軍一萬七百五十五口俱回東寧等衛復業屯種外再有未回軍餘全者遂等四千九百四十口在本國豐海等道備呈具奏欽依如今朝鮮國使臣見在這裏著該付禮部兵部與他設到那裏便尋出發來除欽遵施行去後今准來咨雖

稱再行搜緝終是未獲解報擬合仍行本國依已行事理將原逃未獲軍餘全者遂等務要根捕得獲解送遼東都司交割除具奏外合行移咨本國欽遵施行略中其一爲給還人口事永樂三年正月十六日晚本府官於右順門欽奉聖旨瀾江寧波拿來的賊人他說是朝鮮國人被倭賊拘擄去未知實與不實如今本國使臣見在這裏教錦衣衛將那賊人枷釘了著使臣每帶回還去著該付行移經過衛所撥軍牢固管押直至朝鮮界上交與使臣領到國王處審問如是好百姓就著復業爲民若是逃叛出來的都砍了頭就那裏號令欽此除欽遵外今將欽奉事理備云移咨本國王知會欽遵施行具由回報計送枷釘犯人六名錢尙仔崔伯可李鐵里丁參丁肆車甲壬子甲寅○遼東都指揮使司永樂三年二月二十九日抄蒙左軍都督府壺字一百八十三號批差所鎮撫張振到司爲給還人口

事據經歷司案呈准禮部主客清吏司手本該永樂三年正月十六日晚本部官於右順門奉欽依瀾江寧波拿來的賊人說是朝鮮國人被倭賊拘擄去未知實與不實如今本國使臣見在這裏教錦衣衛將那賊人枷釘了管押直至朝鮮界上交與使臣領到國王處審問如是好百姓就著復業爲民若是逃叛出來的都砍了頭就那裏號令欽此送司案呈到府今差本職管押各犯前去遼東都司比號相同交割仰本司差軍管押至朝鮮界上交付使臣收領回國取具本司印信領狀先行繳報蒙此比號相同行間該差來所鎮撫張振并海州衛呈開沿途病告并見在人名同左字一號格眼一紙呈解到司前事擬合就行爲此除外今將見在枷杻犯人崔伯可等差百戶劉斌領軍人十名固解前赴朝鮮界鴨綠江交與使臣林整等收領轉解前去外咨請煩依奉欽依事理施行須至咨者計枷杻犯人

六名見在 五名崔伯可李鐵里丁參丁肆車甲病故一名錢尙仔於永樂三年正月二十三日行至揚州府江都縣病故本縣刑房典吏張貴等相埋

○甲寅王教化的如建州衛上如太平館行茶禮議政府餞于崇仁門外以上將軍郭敬儀爲伴送使
癸亥（乙丑）○賜前護軍童所乙吾苧布三匹綿布一匹紬布一匹米五石醬一瓮

五年四月

壬午○賜女直萬戶仇老木綿袂衣苧布衣汗衫笠靴香木帶百戶好時羅木綿衣苧布衣汗衫笠靴通事金龍奇木綿苧布各一匹笠乙酉○朝廷使臣王可仁與巨陽人二十餘到兼進骨看兀狄哈居處欲招諭與之還朝也耽州耳州阿赤郎耳吾音會等處人往年與

王教化的入朝者六人帝賜衣今與王可仁俱來

○王教化的等至野人地面王教化的等月八日到吉州先送伴人於童猛哥帖木兒把兒遜等居處猛哥帖木兒等云我等順事朝鮮二十餘年矣朝鮮向大明交親如兄弟我等何必別事大明乎月十四日王教化的到吾音會童猛哥帖木兒率管下人不肯迎命把兒遜著和阿蘭三萬戶路逢教化的伴人言我等順事朝鮮汝妄稱使臣亂雜往來拒而不對到吾音會與猛哥帖木兒約云不變素志仰事朝鮮無貳心

庚寅○朝廷遣百戶金聲到東北面皇帝諭毛憐地面兀良哈萬戶把兒遜著和答失等知道朕今卽位三年天下太平四海內外皆同一家恐爾等不知不相統屬強凌弱衆暴寡何寧息之有今遣百戶金聲等以朕意諭爾并賜爾綵幣等物爾等若能敬順天意誠心來

朝各立衛分給印信授以名分賞賜俾爾世居本土自相統屬打圍收放各安生理經商買賣從便往來共享太平之福故諭

五年五月

丙申（戊戌）○童猛哥帖木兒波乙所等迎勅書受綵段教化的誘之也

庚戌○遣藝文館大提學李行如京師奏曰永樂三年三月十一日王教化的欽奉勅諭到國欽此差陪臣郭敬儀欽依伴送去後據東北面都巡問使呂稱狀啓見爲欽差千戶王教化的等招諭猛哥帖木兒把兒遜著和荅失等將赴朝廷有猛哥帖木兒回稱當初我與兀狄哈相鬪挈家流移到來本國今若赴京慮其兀狄哈等乘間擄掠家小以快其讎又濱大海倭寇來往以此憂疑未決聽此狀啓申達得此照得猛哥帖木兒等始緣兀狄哈侵擾避來地到本國東北

面慶源鏡城地面居住當差役因防倭有功就委鏡城等處萬戶職經今有年永樂二年五月間奉欽差東寧衛千戶王脩賈勅招諭三散秃魯兀等十處女直人民欽此切照洪武二十一年間欽蒙大祖高皇帝聖旨准請公嶮鎮迤北還屬遼東公嶮迤南至鐵嶺仍屬本國因差陪臣金瞻賈文奏達當年十月十一日回自京師欽奉勅書三散千戶李亦里不花等十處人員准請欽此臣與一國臣民感激不已竊念小邦臣事聖朝以來累蒙高皇帝詔旨不分化外一視同仁近又欽蒙勅旨三散等十處人員准請切詳猛哥帖木兒答失等并管下一百八十餘戶見居公嶮鎮迤南慶源地面把兒遜著和等并管下五十餘戶見居公嶮鎮迤南慶源地面各各附籍當差俱係欽蒙准請十處地面皆在聖朝同仁之內伏望聖慈許令上項人等仍舊安業永霑聖澤

五年六月

庚午○賜留京兀狄哈兀良哈吾都里等衣服

○吾都里加應介般大也等還于本土

辛未〔癸酉〕○賜義州通事洪彥苧麻布各二匹以本國人金彥等
逃向遼東能捕而還之也

丁丑○賜吾都里馬多厚童高羅夏衣

丁亥○賜女真萬戶甫也銀帶一腰衣一稱

太宗實錄 卷十

五年七月

丁酉〔己亥〕○賜女真萬戶劉甫也衣帶靴

〔參〕乙卯○以朴子安爲中軍都摠制以朴德公爲鏡城等處都兵馬使朴齡
慶源等處兵馬使又以鄭昇金角之請除授者十餘人

丙辰○遣大護軍李愉于吾晉會時朝廷招諭童猛哥帖木兒我欲
留之故遣愉諭其意

五年八月

辛卯○李愉還自東北面吾晉會童猛哥帖木兒等給愉云我等不
從朝廷招安王教化的等欲還向朝廷初王教化的之來猛哥帖木
兒等以寓居本國境內且受厚恩故陽爲不順朝廷招諭者以示郭

敬儀內實輸寫納款無貳之誠於王教化的潛理粧欲隨教化的赴京師我國未之知也既遣李行奏聞又使愉于吾晉會五年九月

○乙未與啓事諸臣議東北面事宜呂稱報猛哥帖木兒等不願故王教化的留至仲秋朝廷更使人督之吾都里把兒遜著和等聞徐元奇之誘答云若猛哥帖木兒不歸中國則吾等亦然上曰猛哥帖木兒服我未久何可強使入朝然欲留之請帝若不允入送亦可啓事諸臣皆曰然若帝不允何敢不送上曰予初不欲使李行計稟帝已許東北面十處人民矣何顏更請此事

乙巳○童猛哥帖木兒同王教化的入朝京師呂稱報云猛哥帖木兒云李行計稟事帝雖兪允我若此時不入朝則於虛出必專我百姓故不得已入朝已於九月初三日發行印信則以弟於虛里權爲

萬戶授之留吾東站待國家行下

丙午〔己酉〕○遣敬差官曹恰于東北面諭童猛哥帖木兒使同王教化的入朝也

己酉○計稟使通事曹士德回自京師啓曰童猛哥帖木兒事皇帝宣諭內昔日東北面十一處人民二千餘口已皆准請何惜一猛哥帖木兒乎猛哥帖木兒皇后之親也遣人招來者皇后之願欲也骨肉相見人之大倫也朕奪汝土地則請之可也皇親帖木兒何關於汝乎上謂左右曰今聞皇帝之諭不勝惶愧往者不可追來者猶可圖帖木兒理宜督送不可緩也遣陪臣陳情亦不可緩也召參贊李叔蕃議之

○庚戌千秋使尹穆計稟使李行等回自京師尹穆來傳宣諭聖旨永樂三年七月初五日早朝於奉天門叩頭時帝使兵部尙書朝鮮